

イラン国
チャハールマハール・バフティヤーリ州参
加型森林・草地管理プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成25年10月
(2013年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環境
JR
13-242

イラン国
チャハールマハール・バフティヤーリ州参
加型森林・草地管理プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成25年10月
(2013年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

序 文

日本国政府はイラン・イスラム共和国政府の要請に基づき、2010年7月より同国において「チャハールマハール・バフティヤール州参加型森林・草地管理プロジェクト」を実施してきました。

国際協力機構は、このたび評価5 項目における評価の実施と提言・教訓を導き出すための中間レビュー調査団を2012 年9月28日から10月19日の日程で派遣しました。調査団は、イラン側メンバーと合同評価チームを構成して現地調査を行い、その結果を合同評価報告書として協議議事録（ミニッツ）に取りまとめ、署名交換を行いました。

本報告書は、中間レビュー調査時の調査及び協議に基づく結果を取りまとめ、今後の協力への活用を通じ、更なる発展に繋がることを目的としております。

最後に、これら一連の調査及び協議にご協力とご支援を頂いた関係者の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成 25 年 10 月

独立行政法人国際協力機構
地球環境部長 不破 雅実

目 次

目 次

写 真

略語表

レビュー調査結果要約表

第1章 レビュー調査の概要.....	1
1-1 プロジェクト概要.....	1
1-1-1 プロジェクトの背景.....	1
1-1-2 プロジェクト概要.....	1
1-1-3 C/P 機関：.....	2
1-2 調査の目的.....	2
1-3 調査団の構成.....	3
1-4 調査日程.....	3
第2章 評価の方法.....	4
2-1 調査の流れ.....	4
2-2 調査項目.....	4
2-2-1 プロジェクトの実績の確認.....	4
2-2-2 実施プロセスの検証.....	4
2-2-3 評価項目ごとの分析.....	4
2-3 情報収集・入手手段.....	5
第3章 プロジェクトの実績と現状.....	6
3-1 投入実績.....	6
3-2 アウトプットの達成状況.....	7
3-3 プロジェクト目標及び上位目標の達成見込み.....	9
3-3-1 プロジェクト目標の達成状況.....	9
3-3-2 上位目標の達成見込み.....	10
3-4 プロジェクトの実施プロセス.....	10
3-4-1 活動の実施とアウトプットの達成.....	10
3-4-2 マネジメント体制.....	10
3-4-3 外部条件の状況.....	11
3-4-4 他との連携.....	11
第4章 評価5項目による評価結果.....	12
4-1 妥当性.....	12
4-2 有効性.....	12
4-3 効率性.....	12
4-4 インパクト.....	13
4-5 自立発展性（見込み）.....	13
第5章 提言と教訓.....	14

5 - 1	提言	14
5 - 2	教訓	17
	付属資料	19
Annex1.	調査日程	21
Annex2.	合同評価報告書	23
Annex3.	合同調整委員会協議議事録 (Minutes of Meeting)	61
Annex4.	5項目評価	77
Annex5.	林野行政団員による視察結果	83

写 真



Bazoft 地区の様子



村のすぐ上での森林劣化による土壌流出



保護区



保護区の更新プロット



インタークロッピング栽培



洋裁グループ



レビューレポートの署名



合同調整委員会 (JCC)

略 語 表

C/P	Counterpart	カウンターパート
CD	Capacity Development	キャパシティ・ディベロプメント
CF	Community Facilitator	コミュニティファシリテーター
FRWO	Forest, Range & Watershed Management Organization	森林牧草地流域管理機構
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
M/M	Minutes of Meetings	協議議事録
MOJA	Ministry of Jihad-e-Agriculture	農業開発推進省
NRWGO	Natural Resources and Watershed Management, General Office	州自然資源流域管理局
NRWO	Natural Resource Watershed Management Office	郡自然資源局事務所
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OJT	On the Job Training	オンザジョブ・トレーニング
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動計画
PRA	Participatory Rural Appraisal	参加型農村調査(法)
R/D	Record of Discussions	討議議事録
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
VAP	Village Action Plan	ビレッジアクションプラン

評価結果要約表

1. 案件の概要	
国名：イラン・イスラム共和国	案件名：チャハールマハール・バフティヤーリ州参加型森林・草地管理プロジェクト
分野：	援助形態：
所轄部署：地球環境部森林・自然環境保全第二課	協力金額（評価時点）： 224,356 千円（2012 年 10 月末時点）
協力期間	(R/D)：2010 年 3 月 14 日
	(延長)：
	(F/U)： (E/N)（無償）
先方関係機関： 森林牧草地流域管理機構（FWRO）、チャハールマハール・バフティヤーリ州自然資源流域管理局（NRWGO）	
日本側協力機関：一般財団法人海外林業コンサルタンツ協会、一般社団法人日本林業協会、株式会社三祐コンサルタンツ	
他の関連協力：	
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>イラン・イスラム共和国（以下、「イラン」と記す）南西部を流れるカルーン川は、5 州にまたがる国内最大の流域面積を有しており、その約 5 割はチャハールマハール・バフティヤーリ州に属している。近年この流域では、土壌浸食、土石流、地滑りなどの自然災害が発生しており、その原因として、上流域における違法伐採や家畜の過放牧による土地被覆の減少、それらに伴う水源涵養能力の低下などが指摘されている。</p> <p>このような状況の下、国際協力機構（JICA）は 2000 年から 2002 年にかけてカルーン川の上流域を対象とした開発調査「カルーン川流域管理計画調査」を実施し、流域内の 5 地区で流域管理に関するマスタープランを策定した。同調査では特に①洪水・土石流及び地滑り被害の軽減、②土壌流亡の軽減及び水の保全、③植生の回復・改善、④住民の生活水準の向上、⑤農産物の流通改善と農業技術の普及、を目的とした事業実施の必要性が指摘された。マスタープラン策定後、上記①②を中心とした防災関連の事業については、イラン側が主体となり実施されてきた。他方、住民の生計向上や自然資源管理に関する事業（③、④）は実施されてきたものの、現地住民の十分な理解を得た上で実施されたわけではなく、事業としての十分な効果が発現していない状況にある。</p> <p>このような背景から、イラン政府は過剰な森林伐採や過放牧による土地の荒廃を断ち切るため、住民参加による森林・草地管理及び代替生計手段の導入を通じた自然資源の適切な利用に係る技術協力プロジェクトをわが国に対して要請した。</p>	
<p>1-2 協力内容</p> <p>(1) プロジェクト目標：NRWGO の参加型森林・草地管理能力が強化される。</p> <p>(2) アウトプット</p> <p>① NRWGO のキャパシティ・ディベロップメント（CD）のための活動戦略が示される。</p> <p>② 対象村落において森林・草地の更新が促進される。</p> <p>③ 対象村落において森林・草地保全に資する代替生計手段が導入される。</p> <p>④ NRWGO 職員の参加型森林・草地管理に関する技術・知識が強化される。</p>	

(3) 投入 (評価時点)

相手国側:

プロジェクト・スタッフ	管理スタッフ: 4 名 技術スタッフ: 14 名	ローカル・コスト	水道光熱費、通信費 が負担された
-------------	-----------------------------	----------	---------------------

日本側:

専門家	短期専門家: 12 名	機材供与:	2,500 万円
研修員受入れ	6 名	在外事業強化費:	1 億 500 万円

2. 評価調査団の概要

調査者	(担当分野、氏名、職位)		
	分野	氏名	職位
	総括	高田宏仁	JICA 地球環境部 森林・自然環境保全 第二課長
	林野行政	松山 知恵	林野庁
	協力企画	関口卓哉	JICA 地球環境部 森林・自然環境保全 第二課
評価分析	海口 光恵	(株)シー・ディー・シーインターナショナル	

調査期間 2012年8月4日～2012年8月26日 評価種類: 中間レビュー

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

3-1-1 アウトプットの実績

(1) アウトプット1: 2011年3月までに、1年次のベースライン調査結果及び翻訳資料を反映しドラフトversion 1を作成した。2011年12月までに、最終報告書案を作成した。CD戦略書最終版は、2012年11月までに作成する予定である。

アウトプット1は半ば達成されており、プロジェクト終了までに達成される見込みである。

(2) アウトプット2: 2011年に5村で保護区を設定した。植生のモニタリングと比較のためのサンプルプロットが、各保護区の内外で設置され、また、2012年にガードマン研修が実施された。2012年9月までのところ、5村ともに保護区は、設置当初と同様の状況で良好に維持されている。アウトプット2は部分的に達成されており、プロジェクト終了までに達成される見込みである。

(3) アウトプット3: 2011年2月(1年次)には5村のコミュニティファシリテーター(CF)候補27名に対するビレッジアクションプラン(VAP)に関する研修を実施した。2011年6月以降(2年次)、具体的なVAPの検討・作成作業過程を通じて、15人のCFが選定された(森林草地管理、果樹園、生活改善分野のCFが各村にそれぞれ1名ずつ)。2012年5月には5村合同セミナー(参加者は5村3分野の15名)における発表のOJTを実施した。現在各村においてVAPに沿った活動を実施している。

アウトプット3は部分的に達成されており、プロジェクト終了までに達成されると見込まれる。

(4) アウトプット4：アウトプット4は部分的に達成されており、プロジェクト終了までに達成される見込みである。

3-1-2 プロジェクト目標の実績

関連データは入手できなかった。

3-2 評価結果の要約（詳細については ANNEX4 を参照）

3-2-1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は高いと言える。

NRWGO 職員や対象地域の住民からのニーズは、インタビューなどを通じて高いことが確認された。また「イラン国第5次5カ年計画」（2011年3月）及び日本の「政府開発援助（ODA）協力方針（JICA 事業展開計画）」のなかでも当該分野は優先度が高く、両国の政策にも合致しているといえる。さらに日本の技術の優位性についても調査を通じ確認された。

3-2-2 有効性

有効性はおおむね認められるものの、改善の余地がある。

アウトプットやプロジェクト目標に設定された指標に関連する情報やデータについて、十分な収集が出来ていない状況である（特にアウトプット3に関する活動について。なおアウトプット4を除く）。アウトプット4に係る活動については、今年度から質問票、アンケート調査やテストが研修で行われるようになった。しかし例えばプロジェクト目標の指標の1つとして設定された NRWGO や住民の満足度などについては、これまで記録として残るような調査は実施されていない。今後はそのような調査が求められる。

2点目として現在までのところ、アウトプットとプロジェクト目標の因果関係が明確ではないといえる。それぞれのアウトプットの発現は徐々に確認でき、すべてのアウトプットがプロジェクト目標と関連するものである一方で、当初想定されている相乗効果が見られない。

3-2-3 効率性

投入はおおむね活動計画（PO）で計画されたとおりになされているが、改善の余地もある。

CD 戦略報告書（アウトプット1）：

CD 戦略書はプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）の指標として示された2012年6月までに完成していない（2012年10月現在、最終案としてペルシャ語訳を作成中）。専門家の説明によると、最終報告書として日本語版とペルシャ語版共に2012年11月に完成予定である¹。

森林・草地管理（アウトプット2）：

「森林管理」については、すべてのモデル保護地において2012年10月の時点で設定され維持管理されていることが確認された。また植生の回復についても全モデル保護地で確認された。要望に応じて保護地に侵入する家畜対策の研修も実施されたことに加え、砂防ダムの建設時には、現地の状況に詳しい地元の大工を雇用するなど、効果的に活動が進められている。一

¹調査中の専門家との協議を通じて、報告書の構成（内容の追加）と完成予定時期について変更・合意した。新たなPDM指標の設定は2012年12月である。

方で、「草地管理」に係る活動は、当該地域の厳しい地理的地形的要因もありこれまでのところ実施されていない。しかし NRWGO からの要望もあることから、今後の活動の開始が期待される。

村落開発・代替生計手段の検討（アウトプット3）：

代替生計手段に関する活動については、CF の役割について、再度検討する必要があると考えられる。これまでにプロジェクトとしては、住民の意見や対象地域の歴史的背景等と十分に考慮しながら活動を進めてきたものの、活動 3-1 から 3-5 については不明瞭な状況（PDM で示された内容と実際の活動が一致していない）である。さらに、現在の CF の役割は、村の「連絡役」であり、当初想定されていた「普及役」としての機能は果たしていないのが現状である。今後は CF が現状どおり連絡役として、いかに村人の参加を促していくか、もしくは当初の通り普及役として活動を広げていくのか、検討する必要がある。加えて代替生計手段として設立された果樹園であるが、現在のところ参加者が少ない、もしくは場所（村）によっては個人によって管理・運営されている。この状況は限定的な投入であると考えられる。

カウンターパート（C/P）研修（アウトプット4）：

C/P に対する研修は、専門家派遣の時期が特に限られている状況にもかかわらず、計画どおり進んでいる。本邦研修については、これまでに 14 名の C/P 機関の職員が参加している。多くの参加者が本邦研修を通じて日本で習得した森林管理や参加型手法について、イランの現場でも適用が出来るか否か検討しているという意見を得られた。

3-2-4 インパクト

以下の2点について、正のインパクトとして指摘できる。

NRWGO 職員がタロム村において、プロジェクトや本邦研修で得た知識・技術を活用し、森林管理を支援するために組合を設立し、各活動を実践している。これは波及効果の1つと考えられる。

2点目として、職業訓練校（洋裁講師の派遣元）がバゾフト地区において、ローンシステムの設立を視野に入れるなどの活動を検討し始めた。

一方、負のインパクトは現在のところ見当たらない。

3-2-5 自立発展性（見込み）

プロジェクト終了後においても、政策、組織、制度面でのプロジェクトの成果の自立発展性が確保される見込みは高いと考えられる。

NRWGO の職員からの情報によると、政策、組織、制度面での急激な変化は見込まれないとのことである。また NRWGO の本プロジェクトへの予算も当面は確保できるとの意見であった。一方で、代替生計手段に係る活動については、今後検討を要する。

本プロジェクトによる技術の定着、移転についても現在のところ順調に進んでいる。

3-3 問題点及び問題を惹起した要因

3-3-1 計画内容に関すること

- 各アウトプットの発現については徐々に見られるものの、それぞれの達成状況（結果）の間での繋がりや相乗効果が現時点では明確ではない。それぞれのアウトプットを連動させることで、アウトプットとプロジェクト目標との因果関係も明確になると思われる。

3-3-2 実施プロセスに関すること

- 本プロジェクトを担当する6名のNRWGO職員は、本来の業務と兼務しながら活動に従事している。日々詰まったスケジュールの中で、プロジェクト対象地域へ出向く機会を設け、可能な限り本活動へ専念している状況である。
- 現時点では成果4に関する職員研修で得られた知識や技術は、彼らの業務において活用されるにとどまり、本プロジェクトへ生かされている状況とは言えない。
- NRWGOが取り扱う事業の多くは、森林、草地及び水資源管理である。現在プロジェクトの活動として実施している洋裁クラスや果樹園の運営については、本来NRWGOの業務分野ではなく、過去に類似業務の経験を有するNRWGO職員が担当者として従事している。今後のこれらの活動の展開や活動を考慮すると、(当該分野に関連する事業を実施している)農業開発推進省(MOJA)との連携を視野に入れる必要があると考えられる。

3-4 提言(当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言)

(1) 参加型森林草地管理に係るガイドラインの作成

プロジェクト終了後、プロジェクトで蓄積したグッドプラクティスを参照とし、イラン側専門家によって対象地域を拡大していくことが求められる。そのため、プロジェクトは構築した技術や経験をガイドラインとして整理することが望まれる。ガイドラインには天然更新技術や持続的利用に関する技術開発の結果・経験や提言、参加型アプローチに係る方法論・留意点が記載されることが望まれる。

(2) イラン専門家による独自の活動の実施

プロジェクト終了後、イラン側専門家が対象エリアを円滑に拡大していくことができるよう、プロジェクト期間内においてプロジェクトと同様の活動を試行的にイラン側専門家が実施することが望まれる。

(3) 参加型アプローチの促進

村落住民の文化的背景等に起因し、現在の住民のプロジェクトへの参加は限定的であると考えられる。こうした状況を踏まえ、プロジェクト後半においては住民自身の主体的な活動・取組みを一層促進し、参加型アプローチを促進する必要がある。

(4) 森林・草地管理の活動の促進

参加型森林・草地管理に関し、(a) 萌芽更新を含むより多彩な技術開発・実証試験の実施、(b) 選定した1カ所の試験場における草地管理の試験の実施が求められる。

(5) 村落開発活動の促進

プロジェクトで実施している村落開発・代替生計手段の導入の活動については、活動の所管行政機関がNRWGOではない活動が含まれている、代替生計手段としての可能性等の点で問題に直面している。係る状況から、今後は山菜等の森林・草地から直接的に便益を享受する代替生計手段に活動の焦点を絞ること、並びに生産物のマーケティングや事業のための資金調達に係るNRWGOの住民に対する指導の事例を蓄積することが望まれる。

(6) フィールド活動から得られた知見の研修へのフィードバックの促進

当初計画において、成果4において実施している研修コースにフィールドでの経験を反映させることで相乗効果を一層高めることを計画していた。しかしながら現在の研修コースでは必ずしも十分にフィールドの知見を含むことができていない。係ることから、残りの期間に

においてはアウトリーチ活動の経験を研修コースとしてまとめると同時に、他のコースにおいてもフィールドでの実習をより増やしていくことが望まれる。

(7) 他の関連機関との連携

当初計画において、プロジェクトの活動が一定程度進捗した段階で他機関との連携も想定し得るものとしていた。現状を踏まえ、MOJA、文化遺産・手工業・観光公社 (Iran Cultural Heritage, Handy Craft and Tourism Organization : ICHHTO)、森林草地技術研究所 (Forest and Rangeland Technical Institute)、遊牧民局 (NAO)、道路交通省 (MRT) との連携も検討する必要がある。

(8) PDM の改定

PDM の指標の定義をより明確にする、提言に則り活動の一部を見直すなど、PDM の改定を提言した。

(9) 実施プロセスの改善

実施プロセスに関する事項として、(a) 専門家間の意見交換を促すための定期会合の実施、(b) プロジェクトの円滑な実施を促進するため NRWGO 側の業務調整役の配置、(c) PDM の指標に基づいた定期的なモニタリングと活動への反映を提言した。

(10) プロジェクト成果の他地域への展開

本プロジェクトの成果はイラン、特にザグロス山系において有益なものであると考えられることから、プロジェクトの活動の他地域への普及もより積極的に図ることが望まれる。

(11) ポストプロジェクト戦略の整理

プロジェクト終了後の円滑な活動の拡大のため、技術的ガイドラインに加え、プロジェクトはプロジェクト終了後の戦略を準備する必要がある。特に、(1) フィールド活動の従事者のための研修の継続、(2) プロジェクト終了後の実施体制、(3) 車輛等のロジスティカルな事項について、検討・戦略策定を図ることが望まれる。

3-5 教訓

プロジェクトの対象地の多くが国有地であったが、現地住民が慣習的に利用し生計手段としている地域でもあった。そのため、保護区の設置等に際し、村民との間に衝突が発生するなど、住民の調整や土地収用に際して時間を要した。

第1章 レビュー調査の概要

1-1 プロジェクト概要

1-1-1 プロジェクトの背景

イラン・イスラム共和国（以下、「イラン」と記す）南西部を流れるカルーン川は、5州にまたがる国内最大の流域面積を有しており、その約5割はチャハールマハール・バフティヤール州に属している。近年この流域では、土壌浸食、土石流、地滑りなどの自然災害が発生しており、その原因として、上流域における違法伐採や家畜の過放牧による土地被覆の減少、それらに伴う水源涵養能力の低下などが指摘されている。

このような状況の下、国際協力機構（Japan International Cooperation Agency : JICA）は2000年から2002年にかけてカルーン川の上流域を対象とした開発調査「カルーン川流域管理計画調査」を実施し、流域内の5地区で流域管理に関するマスタープランを策定した。同調査では特に①洪水・土石流及び地滑り被害の軽減、②土壌流失の軽減及び水の保全、③植生の回復・改善、④住民の生活水準の向上、⑤農産物の流通改善と農業技術の普及、を目的とした事業実施の必要性が指摘された。マスタープラン策定後、上記①、②を中心とした防災関連の事業については、イラン側が主体となり実施されてきた。他方、住民の生計向上や自然資源管理に関する事業（③、④）は実施されてきたものの、現地住民の十分な理解を得たうえで実施されたわけではなく、事業としての十分な効果が発現していない状況にある。

このような背景から、イラン政府は過剰な森林伐採や過放牧による土地の荒廃を断ち切るため、住民参加による森林・草地管理及び代替生計手段の導入を通じた自然資源の適切な利用に係る技術協力プロジェクトをわが国に対して要請した。

かかる経緯を踏まえ、詳細計画策定調査団を2009年10月に派遣し、イラン国側関係機関との協議及び現地調査を通じて本プロジェクトの必要性、妥当性を確認するとともに、協力内容、協力対象地域を含む協力計画に関して先方と協議を行い、協議議事録〔ミニッツ（Minutes of Meeting : MM）〕の署名交換を行った。

本プロジェクトは、2010年3月にイラン国政府のカウンターパート（Counterpart : C/P）機関である森林牧草地流域管理機構（Forest, Range & Watershed Management Organization : FRWO）及びチャハールマハール・バフティヤール州自然資源流域管理局（Natural Resources and Watershed Management, General Office : NRWGO）と合意、署名、交換された討議議事録（Record of Discussion : R/D）に基づき実施されている。

1-1-2 プロジェクト概要

森林草地管理に当たり、対象村落住民が森林・草地の重要性を認識し、主体的に森林・草地の保護、利用、植生更新を実践するよう行政が働きかけることが必要である。これを踏まえ、本プロジェクトでは、(1)パイロット対象村落において実施する森林・草地の更新、及び(2)活動参加のインセンティブとしての代替生計手段の導入に関するアクションプランの策定、(3)これらの村落での活動の進捗管理や支援業務などに関する技術開発並びに NRWGO の参加型森林管理能力を強化することを目標とする。パイロット対象村落における事業を通じたオンザジョブ・トレーニング（On the Job Training : OJT）形式で経験を積むとともに、現地での活動が難しい冬期には NRWGO 職員を対象に知識の習得を目標とした体系的な研修を実施することにより能力強化を図る。

1-1-3 C/P 機関：

監督機関：FRWO

実施機関：チャハールマハール・バフティヤーリ州 NRWGO

協力期間：4年間（2010年7月8日～2015年6月30日）

プロジェクト枠組み

（上位目標）

チャハールマハール・バフティヤーリ州において参加型森林・草地管理の活動が実践される。

（プロジェクト目標）

チャハールマハール・バフティヤーリ州 NRWGO の参加型森林・草地管理能力²が強化される。

（アウトプット）

- (1) NRWGO のキャパシティ・ディベロップメント（CD）のための活動戦略が示される。
- (2) 対象村落において森林・草地の更新が促進される。
- (3) 対象村落において森林・草地保全に資する代替生計手段が導入される。
- (4) NRWGO 職員の参加型森林・草地管理に関する技術・知識が強化される。

1-2 調査の目的

5年間の協力期間の折り返し地点である2012年9月時点においてプロジェクトをレビューし、今後の事業展開について協議することを目的とする。具体的にはイラン側の評価チームとの合同評価チームを形成し、以下を実施することを目的とする。

- (1) これまで実施してきた協力活動全般（プロジェクトの実績、実施プロセス、運営管理状況等）について、計画に照らしその達成状況を整理・把握する。
- (2) (1)の結果に基づき、JICA 事業評価ガイドラインに則り、評価5項目の観点からプロジェクトの評価を行う。
- (3) 評価結果及びイラン国プロジェクト関係者との意見交換により、残り協力期間の課題及び今後の方向性について明らかにする。
- (4) 将来の類似プロジェクトの形成・実施に参考となる教訓・提言を得る。
- (5) これら結果を合同評価レポートとして整理し、合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）において関係者に報告する。

² 森林の周辺に居住する住民の参加と支援により、森林・草地の保護、利用、植生更新を総合的に促進する管理方法を指す。

1-3 調査団の構成

JICA 側：

担当業務	氏名	現所属（役職）	出張期間
総括	高田宏仁	JICA 地球環境部 森林・自然環境保全第二課長	10月7日～10月18日
林野行政	松山知恵	林野庁森林整備部研究・保全課研究班研究係長	10月7日～10月18日
協力企画	関口卓哉	JICA 地球環境部 森林・自然環境保全第二課	10月7日～10月18日
評価分析	海口光恵	株式会社シー・ディー・シーインターナショナル	9月28日～10月19日

イラン側：

Title	Name	Position
Member	Mr. Ali Javaheri	Deputy for Technical Affairs, NRWGO Fars
Member	Mr. Rahman Tavakoli	Head of Survey office, NRWGO Chaharmahal-va-Bakhtiari

1-4 調査日程

現地調査は2012年9月28日（金）から10月19日（金）の3週間実施された（主たる訪問先と作業内容は Annex1 を参照）。

第2章 評価の方法

2-1 調査の流れ

今回のレビューは、『JICA 事業評価ガイドライン改訂版』の「プロジェクト評価の実践的手法」及び『新 JICA 事業評価ガイドライン 第1版』に準拠して行った。レビューの基になるプロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix : PDM) は R/D 付属の PDM を使用したが、活動計画 (Plan of Operations : PO) は R/D に添付されていないため、詳細計画策定調査 M/M 添付のドラフト PO を使用した。レビューに先立ち、プロジェクト関係文書に基づき、評価のデザインとして評価グリッドを作成した。日本側、イラン側双方によるレビュー・チームは、過去のプロジェクト記録等の資料調査、プロジェクト関係者への事前質問票調査及びインタビュー調査、また現地視察を行い、情報を収集した。これらの結果をもとに、合同評価報告書案を作成し、合同評価委員会における協議を経て、報告書を完成させた。

2-2 調査項目

2-2-1 プロジェクトの実績の確認

計画に沿ってプロジェクトの投入、アウトプット、プロジェクト目標が達成された度合いを検証する。

2-2-2 実施プロセスの検証

プロジェクトの実施過程全般を見る視点であり、活動が計画どおり行われているか、またプロジェクトのモニタリングやプロジェクト内のコミュニケーションが円滑に行われているかを検証する。

2-2-3 評価項目ごとの分析

(1) 妥当性 :

プロジェクトの目指している効果 (プロジェクト目標) が、評価を実施する時点において妥当か [イランの国家開発計画及び日本の政府開発援助 (Official Development Assistance : ODA) 政策との整合性はあるか、受益者のニーズに合致しているか等]、プロジェクトの戦略・方法は妥当か等を評価する。

(2) 有効性 :

プロジェクト目標達成の見込みはあるか、プロジェクト目標に対しアウトプットは適切か、目標達成の貢献・阻害要因はあるか等を評価する。

(3) 効率性 :

投入に見合ったアウトプットが産出されているか、活動スケジュールと投入のタイミング・質・量はアウトプット産出には適切だったか等を評価する。

(4) インパクト :

プラスのインパクトはあるか (予測されるか)、予期していなかったマイナスのインパクトはあるか (予測されるか)、マイナスのインパクトがある場合、それに対する対策は講じられているかを評価する。

(5) 持続性：

協力が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続する見込みについて、組織制度面、財政面、技術面から評価する。

2-3 情報収集・入手手段

現地調査に先立ち、プロジェクトに指標及び投入の実績に関する情報提供を依頼した。さらに、主としてプロジェクトの実施プロセス・評価5項目に関する質問票を英語で作成し、プロジェクト関係者に事前に配布した。現地においては、指標及び実施プロセスの確認と評価5項目に関する補足情報を収集するために、質問票回答者に対してセミ・ストラクチャード・インタビューを行った。イラン側調査団と日程の折り合いがつかなかったため、インタビューは日本側のみで行った。インタビューは基本的に個別とした。

第3章 プロジェクトの実績と現状

実績の把握にあたっては、2011年11月に開催された第2回JCC時に合意されたPDMをベースとする。

3-1 投入実績

R/D及びPDMに従って、おおむね計画どおりに日本側とイラン側双方からプロジェクトへの投入が行われた。投入実績の詳細は、ANNEX2に示すとおりである。

(日本側)

(1) 日本人専門家の派遣

2010年7月から4名の専門家の派遣によりプロジェクトが開始された。この4名を含め、これまで6名〔チーフアドバイザー/参加型森林草地管理(1)、副総括/参加型森林草地管理(2)、参加型村落開発(1)、業務調整/参加型村落開発(2)、組織能力強化/研修(1)、組織能力強化/研修(2)〕の専門家が派遣されている。

(2) C/P研修

2011年1月、2012年1月から2月、2012年7月に行われた研修にそれぞれ4名、4名、6名が参加した。

(3) 資機材供与

供与された機材は、プロジェクト事務所で使用するパソコン、プリンター、コピー機、プロジェクター、スクリーンなどのオフィス機器である。

(4) 現地業務費

日本側はプロジェクト活動の実施に必要な費用の一部を負担した。これらの費用は、C/P研修、供与機材費、現地業務委託、ローカルスタッフ雇用、消耗品を含むその他の出費であり、これまでの合計額は8,452万2,000円である。

(イラン側)

(1) C/Pの配置

FRWOからのプロジェクトディレクター、NRWGOからプロジェクトマネジャー、専門家が配置され、述べ18人のC/Pがプロジェクト活動に携わってきた。

(2) その他

プロジェクト活動に必要な日本人専門家の執務スペースを提供した。

3-2 アウトプットの達成状況

アウトプットの達成状況は、以下の表3-1から表3-4に示すとおりである。

表3-1 アウトプット1の達成状況

アウトプット1：NRWGOのCDのための活動戦略が示される。

指標	達成状況	情報源
2012年6月までにCD戦略書が作成される。	1) 2011年3月までに、1年次のベースライン調査結果及び翻訳資料を反映しドラフトversion1を作成した。 2) 2011年12月までに、最終報告書案を作成した。 3) CD戦略書最終版は、2012年11月までに作成予定である。	第1年次・第2年次報告書 インタビュー 事業進捗報告 質問書回答

表3-2 アウトプット2の達成状況

アウトプット2：対象村落において森林・草地の更新が促進される。

指標	達成状況	情報源
1) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに設置目的を達成しつつ、維持される。	1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 2012年にガードマン研修を実施した（フーズスタン地域の深刻な干ばつにより、多くの放牧民がバゾフト地区に滞在した。一部の柵のない村では、家畜の侵入防止は困難であったため）。 3) 2012年9月までのところ、5村ともに保護区は、設置当初と同様の状況で良好に維持されている。	第1年次・第2年次報告書 インタビュー 事業進捗報告 質問書回答
2) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに植生が回復したと評価される。	1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 植生のモニタリングと比較のためのサンプルプロットが、各保護区の内外で設置された。 3) ナラの幼樹の再生がすべての保護区において2012年に確認された。	同上

表3-3 アウトプット3の達成状況

アウトプット3：対象村落において森林・草地保全に資する代替生計手段が導入される。

指標	達成状況	情報源
1) 対象村落毎に最低5人のコミュニティファシリテーター (CF) の研修が2012年12月までに始まる。	1) 2011年2月(1年次)には5村のCF候補27名に対するビレッジアクションプラン (VAP) に関する研修を実施した。 2) 2011年6月以降(2年次)は、具体的にVAPの検討・作成作業過程を通じて、CFが選定された。 3) 2012年4月(3年次)には、各村のVAP実施状況報告資料作成と発表WSを実施し、ほぼ全員のCFが参加した。 4) 2012年5月には5村合同セミナー(参加者は5村3分野の15名)における発表のOJTを実施した。 5) 2011年(2年次)に説明会を実施した。2012年にはガードマン研修、山火事防止研修、果樹園、洋裁の講師と共に市場調査を実施した。	第1年次・第2年次報告書 インタビュー 事業進捗報告 質問書回答
2) VAPのサブプロジェクト活動の実施に必要なCFの数の70%が、2014年12月にも維持されている。	1) 15人のCFが選定された(3CF/村×5=15、森林草地管理5、果樹園5、生活改善5)	同上
3) 2014年12月までに各対象村落においてアクションプランが少なくとも1つ以上計画に沿って実施される。	1) 各村においてVAPに沿った活動を実施中である。 * 洋裁クラス：ガゼスタン、マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラックソフラ。 * 果樹園：マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラックソフラ	同上

表3-4 アウトプット4の達成状況

アウトプット4：参加型森林・草地管理に関するNRWGO職員対象のCD研修が計画・実施される。

指標	達成状況	情報源
1) 対象村落毎に最低5人のCFの研修が2012年12月までに始まる。	1) 2011年2月(1年次)には5村のCF候補27名に対するVAPに関する研修を実施した。 2) 2011年6月以降(2年次)は、具体的にVAPの検討・作成作業過程を通じて、CFが選定された。 3) 2012年4月(3年次)には、各村のVAP実施状況報告資料作成と発表WSを実施し、ほぼ全員のCFが参加した。 4) 2012年5月には5村合同セミナー(参加者は5村3分野の15名)における発表のOJTを実施した。 5) 2011年(2年次)に説明会を実施した。2012年にはガードマン研修、山火事防止研修、果樹園、洋裁の講師と共に市場調査を実施した。	第1年次・第2年次報告書 インタビュー 事業進捗報告 質問書回答

2) VAPのサブプロジェクト活動の実施に必要なCFの数の70%が、2014年12月にも維持されている。	1) 15人のCFが選定された(3CF/村×5=15、森林草地管理5、果樹園5、生活改善5)	同上
3) 2014年12月までに各対象村落においてアクションプランが少なくとも1つ以上計画に沿って実施される。	1) 各村においてVAPに沿った活動を実施中。 * 洋裁クラス：ガゼスタン、マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラックソフラ。 * 果樹園：マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラックソフラ	同上

3-3 プロジェクト目標及び上位目標の達成見込み

3-3-1 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標の達成状況は表3-5に示すとおりである。

表3-5 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：チャハールマハール・バフティヤール NRWGO の参加型森林・草地管理能力が強化される。

指標	達成状況	情報源
1) NRWGO 職員のうちプロジェクト参加者の70%以上がプロジェクトを通して得た技術・知識を活用していると認識する。	<ul style="list-style-type: none"> - インタビュー結果によると約80%の参加者が満足している。 - その他、検証可能な客観的データなし。 	<ul style="list-style-type: none"> - インタビュー - 事業報告書
2) 対象村落のプロジェクト参加住民の70%以上が NRWGO の参加型森林・草地管理に関する能力が強化されたと評価する。	<ul style="list-style-type: none"> - 検証可能な客観的データなし。 - 指標の達成を評価するには時期尚早。 	同上
3) プロジェクト活動に参加した住民の70%が、2014年12月までにプロジェクトによって何らかの便益を得たと認識する。	<ul style="list-style-type: none"> - 検証可能な客観的データなし。 - 指標の達成を評価するには時期尚早。 	同上

3-3-2 上位目標の達成見込み

上位目標の達成に関連する状況は表3-6に示すとおりである。

表3-6 上位目標の達成に関連する状況

上位目標：チャハールマハール・バフティヤール州において参加型森林・草地管理の活動が実践される。

指標	状況	情報源
NRWGO がプロジェクトで得た知識を活用して、対象地域の1村落以上で新たに森林・草地管理の活動を開始する。	- NRWGO 職員（コミュニティ開発担当、本邦研修参加）がタロム村において、プロジェクトを通じて得た参加型手法の知識を活用し、森林管理を支援するために組合を設立し、各活動を実践している（今後も情報収集を継続）。	インタビュー

3-4 プロジェクトの実施プロセス

3-4-1 活動の実施とアウトプットの達成

NRWGO 職員及びプロジェクト専門家によって、プロジェクトの活動の質の向上に向けた取り組みや細かな工夫が随所に施されており、アウトプット及びプロジェクト目標の達成に寄与している。一方で、現時点で下記の点については今後の改善点としてあげられる。

アウトプットの因果関係

各アウトプットの発現については徐々に見られるものの、それぞれの達成状況（結果）の間での繋がりや相乗効果が現時点では明確ではない。それぞれのアウトプットを連動させることで、アウトプットとプロジェクト目標との因果関係も明確になるとと思われる。

3-4-2 マネジメント体制

本プロジェクトを担当する6名のNRWGO職員は、本来の業務と兼務しながら活動に従事している。日々詰まったスケジュールの中で、プロジェクト対象地域へ出向く機会を設け、可能な限り本活動へ専念している状況である。例として、あるNRWGO担当職員は州に1度は対象地域を訪問し、ほぼ毎日CFメンバーへ電話で連絡しているという。彼らのプロジェクトに対する熱意と積極的な参加は、対象地域の住民からの理解を徐々に得ており、活動の継続へと結びついているといえる。さらにアウトプット4に係る活動として実施されているCPに対する研修のニーズは高く、これまでに実施された15クラスには多くの参加者が得られた。この活動は、NRWGO職員の知識・技術の向上、そして能力の強化に貢献していると同時に、今後のポテンシャルの拡大へとつながる可能性があると思料する。一方で、現時点では研修で得られた知識や技術は、彼らの本業に活用するにとどまり、本プロジェクトに生かされている状況とは言えない。もし本研修後に、研修参加者たちが本プロジェクトで実施されている森林・草地管理や村落開発の活動に従事することがあれば、プロジェクトの質の向上にも貢献できると同時に、将来的にイラン側の事業実施能力の強化にもつながることが考えられる。

日本側に専門家についても、限られた派遣期間下で最大限の成果を出すべく、さまざまな取り組みを実施している。例えば、対象地域は文化的・社会的背景から参加型手法の導入が難し

いとされている中で、地元出身の専門家や方言を理解できる通訳を配置することで、より円滑なコミュニケーションを図るなど、細かな配慮を施している。今後もより緊密な連携を NRWGO や関係機関と図ることで、プロジェクトの運営も円滑になることが期待される。

3-4-3 外部条件の状況

現在のイラン経済は、通貨価値の下落が急速に進んでいる状況である。本調査期間においても、1日でリアル（現地通貨）の価値が18%下落したり、1カ月前は1ドル20,000リアルであったのが、現在は30,000リアルであるなど為替相場の変動が激しい状況である。

3-4-4 他との連携

NRWGO が取り扱う事業の多くは、森林、草地及び水資源管理の分野である。現在プロジェクトの活動として実施している洋裁クラスや果樹園の運営については、本来 NRWGO の業務分野ではなく、過去に類似業務の経験を有す NRWGO 職員が担当者として従事している。今後のこれらの活動の展開や活動を考慮すると、（当該分野に関連する事業を実施している）農業開発推進省（Ministry of Jihad-e-Agriculture : MOJA）との連携を視野に入れる必要があると考えられる。

加えて、国連開発計画（United Nations Development Programme : UNDP）も対象地域を含め環境保全のプロジェクトを実施しており、本プロジェクトにも興味を示している。これまでも UNDP の専門家として働いている FRWO 職員が、本プロジェクトの C/P 研修（成果4）の講師として従事した経緯もある。さらに本プロジェクトの FRWO のプロジェクトコーディネーターは UNDP プロジェクトのプロジェクトマネージャーでもあり、双方の現状に詳しい。必要に応じて UNDP 側との情報共有・交換を通じ、連携を図ることもプロジェクトの質の向上に寄与できる可能性がある。

第4章 評価5項目による評価結果

(本章の詳細については Annex5 を参照のこと)

4-1 妥当性

以下のことから、本プロジェクトの妥当性は高いと言える。

NRWGO 職員や対象地域の住民からのニーズは、インタビューなどを通じて高いことが確認された。またイラン国第5次5カ年計画(2011年3月)及び日本のODA協力方針(JICA事業展開計画)の中でも当該分野は優先度が高く、両国の政策にも合致しているといえる。さらに日本の技術の優位性についても調査を通じ確認された。

4-2 有効性

有効性はおおむね認められるものの、改善の余地がある。

アウトプットやプロジェクト目標に設定された指標に関連する情報やデータについて、十分な収集が出来ていない状況である(特にアウトプット3に関する活動について。なおアウトプット4を除く)。アウトプット4に係る活動については、今年度から質問票・アンケートやテストが研修で行われるようになった。しかし例えばプロジェクト目標の指標の1つとして設定された NRWGO や住民の満足度などについては、これまで記録として残るような調査は実施されていない。今後そのような調査が求められる。

2点目として現在までのところ、アウトプットとプロジェクト目標の因果関係が明確ではないといえる。それぞれのアウトプットの発現は徐々に確認でき、すべてのアウトプットがプロジェクト目標と関連するものである一方で、当初想定されている相乗効果が見られない。

4-3 効率性

投入はおおむね PO で計画されたとおりになされているが、改善の余地もある。

CD 戦略報告書 (アウトプット1) :

CD 戦略書は PDM の指標として示された 2012 年 6 月までに完成していない(2012 年 10 月現在、最終案としてペルシャ語訳を作成中)。専門家の説明によると、最終報告書として日本語版とペルシャ語版共に 2012 年 11 月に完成予定である³。

森林・草地管理 (アウトプット2) :

「森林管理」については、すべてのモデル保護地において 2012 年 10 月の時点で設定され維持管理されていることが確認された。また植生の回復についても全モデル保護地で確認された。要望に応じて保護地に侵入する家畜対策の研修も実施されたことに加え、砂防ダムの建設時には、現地の状況に詳しい地元の大工を雇用するなど、効果的に活動が進められている。一方で、「草地管理」に係る活動は、当該地域の厳しい地理的地形的要因もありこれまでのところ実施されていない。しかし NRWGO からの要望もあることから、今後の活動の開始が期待される。

³調査中の専門家との協議を通じて、報告書の構成(内容の追加)と完成予定時期について変更・合意した。新たな PDM 指標の設定は 2012 年 12 月である。

村落開発・代替生計手段の検討（アウトプット3）：

代替生計手段に関する活動については、CFの役割について、再度検討する必要があると考えられる。これまでにプロジェクトとしては、住民の意見や対象地域の歴史的背景等と十分に考慮しながら活動を進めてきたものの、活動3-1から3-5については不明瞭な状況（PDMで示された内容と実際の活動が一致していない）である。さらに、現在のCFの役割は、村の「連絡役」であり、当初想定されていた「普及役」としての機能は果たしていないのが現状である。今後はCFが現状どおり連絡役として、いかに村人の参加を促していくか、もしくは当初の通り普及役として活動を広げていくのか、検討する必要がある。

加えて代替生計手段として設立された果樹園であるが、現在のところ参加者が少ない、もしくは場所（村）によっては個人によって管理・運営されている。この状況は限定的な投入であると考えられる。

C/P研修（アウトプット4）：

C/Pに対する研修は、専門家派遣の時期が特に限られている状況にもかかわらず、計画どおり進んでいる。前項でも述べたとおり、将来的に研修参加者が本プロジェクトの森林管理や参加型開発に係る活動にも関わることが望まれる。

本邦研修については、これまでに14名のC/P機関の職員が参加している。多くの参加者が本邦研修を通じて日本で習得した森林管理や参加型手法について、イランの現場でも適用できるか否か検討しているという意見を得られた。

4-4 インパクト

以下の2点について、正のインパクトとして指摘できる。

NRWGO職員がタロム村において、プロジェクトや本邦研修で得た知識・技術を活用し、森林管理を支援するために組合を設立し、各活動を実践している。これは波及効果の1つと考えられる。2点目として、職業訓練校（洋裁講師の派遣元）がバズフト地区において、ローンシステムの設定を視野に入れるなどの活動を検討し始めた。

一方、負のインパクトは現在のところ見当たらない。

4-5 自立発展性（見込み）

プロジェクト終了後においても、政策、組織、制度面でのプロジェクトの成果の自立発展性が確保される見込みは高いと考えられる。

NRWGOの職員からの情報によると、政策、組織、制度面での急激な変化は見込まれないとのことである。またNRWGOの本プロジェクトへの予算も当面は確保できるとの意見であった。一方で、代替生計手段に係る活動については、今後検討を要する。

本プロジェクトによる技術の定着、移転についても現在のところ順調に進んでいる。

第5章 提言と教訓

5-1 提言

(1)参加型森林草地管理に係るガイドラインの作成

本プロジェクトでは、対象村落において複数技術の実証を重ねることで森林草地更新・管理に係るグッドプラクティスを蓄積することを目指しており、またイラン側が開発した技術を他のエリアに普及させていくことを期するものである。速やかな普及を図るため、プロジェクトは以下の内容を含むガイドラインを作成することが望まれる。

1)プロジェクトにより実証された森林草地更新と持続的利用のための技術

プロジェクトでは、対象村落において森林草地更新と森林・草地の持続的利用に関する技術の実証がなされることから、ガイドラインには、各技術の具体的な手法と予備的なファイビリティ、並びに長期間にわたる森林草地管理方法に係る考察が含まれることが望ましい。

2)参加型アプローチの手法

本プロジェクトでは村人を森林・草地管理並びに村落開発の活動に巻き込んできている。したがって、将来プロジェクト活動の発展のため、村人からの信頼の獲得、現地でのネゴシエーション、住民グループの組織化、住民間の合意形成、住民グループのアクションプラン作成・実施のための指導等に係る経験をガイドラインに含めることが望ましい。

(2) イラン人専門家による同様の活動の実施

プロジェクト終了後、イランの専門家は、プロジェクトによって開発された森林・草地管理のためのモデルを活用し、対象村落を拡大していくこととなる。イラン人専門家による普及拡大の成功をより確実にするため、プロジェクト残り期間において、日本専門家の協力の下、プロジェクトで構築された技術を活用し現在の対象村落以外でイラン人専門家が独自にプロジェクト活動を展開することが望まれる。

(3) 参加型アプローチの更なる深化

文化的な背景や住民の間での争い等により、参加する住民の割合や自主的に持続的森林草地管理を行っていく住民の意識といった点で、住民参加は限定的であった。こうした状況に対し、プロジェクトでは、特に CF の選定、住民自身の意見表明の奨励、住民の合意の取り付け、VAP の作成と実施、保護区の設立において、住民参加を促していくべきである。

(4)森林・草地更新に係る活動の強化

森林・草地更新はプロジェクトの上位目的であるため、プロジェクトにはより多様な更新の手法を検証する継続的な努力が求められる。この観点から、以下の事項を検討することが推奨される。

1)萌芽更新を含む種々の技術の開発と実証

プロジェクトは、天然更新に加えて他の技術を開発、実証することが奨励される。一例として、無制限に伐採しても良いという誤解を住民に与えないよう、NRWGO は萌芽更新

を許可、ないしは推奨していないが、Bazoft エリアで適用しうる可能性を有した方法の 1 つであり、村人の十分な理解を得て実施されることが望まれる。

2)天然更新の対象草地の選定

PDM には草地更新、草地のための活動が含まれているものの、現在まで実施に至っていない。これは、半定住遊牧民の制御困難な影響、対象となる草地へのアクセスが困難であることによるものであり、いずれもプロジェクト開始時点での想定を上回っている。これらを考慮し、草地を 1 カ所選定し、更新のデモンストレーションを実施することが適切である。

(5)村落開発の活動

プロジェクトでは、住民が森林更新の活動に参加するインセンティブをもたらし、放牧に替わる代替生計手段を確立させることを目標として、村落開発活動を展開してきた。しかし、これらの活動の一部が NRWG の所管外であること、代替生計手段のフィージビリティが不確実であることなど、いくつかの問題に直面している。これらを踏まえ、プロジェクトでは、下記の点について検討すべきである。

a)森林・草地を活用する活動の更なる発展

住民が森林・草地を保護するインセンティブを高めていくため、プロジェクト後半においては、山菜をはじめとする森林資源から直接住民が恩恵を受ける活動に集中することが期待される。

b)マーケティング・資金調達の促進

住民の代替収入を確保するため、村人によるマーケティングや資金調達を政府機関が支援するモデルをプロジェクトで検討していくことが重要となる。このため、住民による市場開拓や融資・補助金の獲得のための支援活動をプロジェクトにおいて試行的に実施していくことが必要となろう。

(6)フィールド活動の研修コースへのフィードバック

プロジェクト設計段階では、アウトプット 4 のトレーニングコースは、天然更新と村落開発のためのフィールド活動から得られた教訓を反映することを意図していた。しかし、これまでのところ、研修生のほとんどは、実際のフィールドの実例を研修コースの中で必ずしも学ぶことができていない。このような状況に対し、フィールド活動の研修コースへのフィードバックを次のように強化することが期待される。

1)フィールド活動の経験を学ぶ研修モジュールの開発

プロジェクトが経験したフィールドでの知見を研修モジュールとして取りまとめることが期待される。これには特に Bakhtriari 族や女性グループに対しても応用可能な参加型手法、並びにマーケティングや資金調達に係る助言も含まれる。

2)フィールドでの研修コースの増加

プロジェクトは既に村落でのフィールド研修を実施しようと試みてきたが、研修生が特に Bazoft エリアの村落で参加型アプローチを實踐し得る研修コースを増やしていくことが望ましい。

(7)他の関係機関との連携

プロジェクト設計の段階では、プロジェクト活動が一定程度進捗した時点で、対象村落での活動を持続的なものとするために、NRWGO 以外の他機関との連携も検討し得るものとしていた。現状を踏まえ、1) 多様な自然・社会条件の下での技術のデモンストレーション、2) 他機関が所管している村落開発活動を継続させていくため、MOJA、文化遺産・手工業・観光公社 (Iran Cultural Heritage, Handy Craft and Tourism Organization : ICHHCTO)、森林草地技術研究所 (Forest and Rangeland Technical Institute)、遊牧民局 (Nomad Affairs Organization : NAO)、道路交通省 (Ministry of Road and Transportation : MRT) などとの適切な連携が必要となる。

(8)PDM の修正

提言(1)に基づき、当初 PDM にガイドライン作成に係る活動を追加し、プロジェクトの持続性を担保することが望まれる。また、プロジェクト目標並びに各アウトプットの指標の定義・目標をより明確にすべきである。これらを踏まえ、イランのプロジェクト関係者と日本人専門家との議論に基づき PDM ver.3 案として修正された。修正された PDM は、2012 年 10 月 17 日に JCC に提出され、レビューされる必要がある。

(9)実施プロセスの改善

上述のプロジェクトが直面している各種問題に対応するため、以下の対策を講じることが望まれる。

1)定期会合の実施

プロジェクト専門家間の情報共有を促すため、定期的に会合を開催することが推奨される。

2) NRWGO 側のイラン人調整員の配置

プロジェクト活動の円滑な実施のため、可能な範囲で、ロジスティックな業務を担当する NRWGO 側のイラン人調整員を配置することが望まれる。

3)プロジェクトの達成度のモニタリングとプロジェクト活動へのフィードバック

プロジェクトでは、これまで CF、活動への参加者や NRWGO 職員の知識や理解度合いをインタビュー等により確認してきたが、PDM の指標に基づくモニタリングはなされてきていない。プロジェクトの成果を把握しその後の戦略に反映するため、モニタリング、記録並びに各活動へのフィードバックがなされる必要がある。

(10)プロジェクト成果の他地域への展開

イラン政府は参加型手法を重視しており、プロジェクト成果は、イランの他地域、特にザグロスエリアにおいても適用可能である。本プロジェクトでは、既にプロジェクト前半において他の自然資源保全関連のプロジェクトからの視察を受け入れていることを踏まえ、より積極的に関係機関へプロジェクト活動を普及することが奨励される。

(11)プロジェクト終了後の戦略の策定

村民と行政機関が Bazoft 地域における森林・草地管理のための活動を継続していくため、

NRWGO 並びにプロジェクトは、技術指針の他に、以下のようなプロジェクト終了後の戦略を作成すべきである。

1)アウトリーチ活動に係る職員の継続的研修

Bazoft エリアで参加型森林・草地管理に必要な人材を十分な人数育成していくため、プロジェクト終了後もプロジェクトによって確立したトレーニングコース、OJT を継続していくことが重要となるだろう。したがって、プロジェクト終了後の能力強化のための体制について、プロジェクト後半の期間において検討する必要がある。

2)プロジェクト終了後の実施体制

人材育成のための体制に加えて、技術開発、普及活動に係る実施体制についても議論する必要がある。これには、人材の配置、他機関との協調、並びに予算配賦に係る議論も含まれる。技術開発については、樹木、果樹並びに山菜の天然更新には長い時間を要し、技術の実証に時間がかかることから、プロジェクト終了後においても実証試験を継続していく努力が求められる。

3)その他事項

NRWGO は、プロジェクト終了後のアウトリーチ活動のための交通手段等、いくつかのロジスティックな問題に対処していくことが必要である。

5-2 教訓

・国有地に関する土地利用の問題について

プロジェクトエリアのほとんどは国有地に属しているが、地域住民の多くは、過去からの伝統に基づき、土地の共同利用により生計を得ている。このため、国有地内での保護区の設置に向けた合意形成に際して住民間で摩擦が生じ、土地収用や住民グループの調整のために多くの時間が割かれた。

付属資料

- Annex1. 調査日程
- Annex2. 合同評価報告書
- Annex3. 合同調整委員会協議議事録 (Minutes of Meeting)
- Annex4. 5項目評価
- Annex5. 林野行政団員による視察結果

Annex1.

調 査 日 程

Date		Mr.Takata, Ms. Matsuyama Mr.Sekiguchi	Ms. Umiguchi
29-Sep	Sat		Tehran 10:25 (EK971) Courtesy Call to JICA Iran Office Courtesy Call and Interview with FRWO Tehran 17:20 → Isfahan 18 :25 (IR392) , Move to Shahrekord
30-Sep	Sun		Courtesy Call to NRWGO (Explanation of review methods, scheduling) Individual Interview with Dr. Ataollah Ebrahimi, Individual Interview with Mr. Farzad Rezazade, Ms. Bahareh Toufighi
1-Oct	Mon		Individual Interview with Mr. Alimohammad Mohammadi Interview with C/P training member (Mr. Shahin Drakhshan, Mr. Soleiman Bahmani and Ms. Arezo Banihashimi) Individual Interview with Dr. Osman Atif
2-Oct	Tue		Site Visit to Gazestan- Mazerashte- Durak Sofla Interview with CFs/Guard-men/ Villagers/ dressmaking school
3-Oct	Wed		Site Visit to Tarom- Tabarak Sofla- Robotkoh Interview with CFs/Guard-men/ Villagers/ dressmaking school
4-Oct	Thu		Document Preparation (Summary of field visit & Interview)
5-Oct	Fri		Document Preparation (Summary of field visit & Interview)
6-Oct	Sat		Visit Training Course (Pest and Diseases Control) Individual Interview with Mr. Atsushi Hisamichi
7-Oct	Sun		Individual Interview with Mr. Fakhrodin Karimzade and Mr. Shahin Drakhshan Individual interview with Ms. Saori Takei
8-Oct	Mon	Tehran 10:25 (EK971) Courtesy Call to JICA Office 13:00 Courtesy Call to FRWO Tehran 17:20 → Isfahan 18 :25 (IR392) , Move to Shahrekord	Individual interview with Ms. Seichi Mishima Document Preparation
9-Oct	Tue		Courtesy Call to NRWGO First Joint Review Committee (Explanation of the survey purposes・methods, Presentation by Experts, Discussion) Group Interview to Mr. Shahram Jazayeri, Mr. Farzad Rezazade
10-Oct	Wed		Site visit to Nursery and Training room Interview at MOJA KoohrangOffice Site Visit to Gazestan village
			Move to Shahrekord
11-Oct	Thu	Site Visit to Tabarak sofla, Durak Sofla, Tarom- Robotkoh villages Interview with Villages/CFs	Document Preparation
12-Oct	Fri	Site Visit to Mazerashte village Move to Shahrekord	Document Preparation
13-Oct	Sat		Interview to Mr.Alimohammad Mohammadi Interview to Mr. Fakhrodin Karimzade Interview to Dr. Ataollah Ebrahimi Interview at Forest and Rangeland Research Institute
14-Oct	Sun		Discussion with Japanese Expert on the Project
15-Oct	Mon		Discussion with Japanese Experts on the Report especially in Recommendation
16-Oct	Tue		Second Joint Review Committee to sign to the Report inviting Discussion with Dr. Ebrahimi, Mr. Mohammadi Preparation of final draft of M/M Meeting with Mr.Parviz Garshasbi (Confirmation of contents of M/M and the Report by FRWO, NRWGO, Japanese Experts)
17-Oct	Wed		JCC (progress report, evaluation report , discussion) / Sign to M/M (if possible) Isfahan 22:50 → Tehran 24:05 IR237 (Fokker 100)
18-Oct	Thu		10 :00 Report to JICA Iran 14 :00 Courtesy Call and Report to Emabssy of Japan (EOJ) Tehran 21:45→

REPORT OF THE JOINT MIDTERM REVIEW
ON
THE PARTICIPATORY FOREST AND RANGELAND MANAGEMENT PROJECT
in CHAHARMAHAL-va-BAKHTIARI PROVINCE
ISLAMIC REPUBLIC of IRAN

October 16, 2012

高田 英仁

Mr. TAKATA Hirohito
Leader of Japanese Review Team
Global Environment Department
Japan International Cooperation Agency
Japan

Mr. Ali JAVAHERI
Member of Iranian Review Team
Deputy for Technical Affairs
NRWGO Fars
Islamic Republic of Iran



Mr. Rahman TAVAKOLI
Member of Iranian Review Team
Head of Survey office
NRWGO Chaharmahal-va-Bakhtiari
Islamic Republic of Iran



TABLE OF CONTENTS

1. Introduction
 - 1.1 Objectives of the Joint Review
 - 1.2 Members of the Joint Review
 - 1.3 Schedule of the Review Study
2. Outline of the Project
 - 2.1 Background of the Project
 - 2.2 Summary of the Project
3. Methodology of the Review
 - 3.1 Data Collection Method
 - 3.2 Items of Analysis
4. Summary of Accomplishment and Implementation Process of the Project
 - 4.1 Records of Inputs
 - 4.2 Records of Activities
 - 4.3 Achievement of Outputs
 - 4.4 Prospects of the Achievement of the Project Purpose and Over Goal
 - 4.5 Project Implementation Process
5. Summary of Review Results based on Five Evaluation Criteria
 - 5.1 Relevance
 - 5.2 Effectiveness
 - 5.3 Efficiency
 - 5.4 Impacts
 - 5.5 Sustainability (Forecast)
6. Recommendations and Lessons learned
 - 6.1 Recommendations
 - 6.2 Lessons learned

<Annex>

- Annex 1: Revised Project Design Matrix (PDM)
- Annex 2: Plan of Operation and Actual Operation
- Annex 3: Schedule of Evaluation Mission
- Annex 4: List of Main Interviewees
- Annex 5: List of Inputs (Assignment of Iranian Experts/ Counterparts and Japanese-side Experts)
- Annex 6: List of Inputs (Counterpart Trainings)
- Annex 7: List of Inputs (Equipment Provided)
- Annex 8: List of Inputs (Items of Operational Costs)
- Annex 9: Progress of the activities
- Annex 10: Evaluation Grid based on the 5 Criteria

39





Chapter 1: Introduction

1.1 Objectives of the Joint Review

The review activities were performed with the following objectives:

- (1) To verify the accomplishments of the Project compared to those planned;
- (2) To identify obstacles and/or facilitating factors that have affected the implementation process;
- (3) To analyze the Project in terms of the five evaluation criteria (i.e. Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability); and
- (4) To make recommendations on the Project regarding the measures to be taken for the remaining period as well as the post-project period.

1.2 Members of the Joint Review Team

(1) The Japanese Team

Name	Title	Position
Mr. Hirohito TAKATA	Team Leader	Director, Forestry and Nature Conservation Division II, Global Environment Department. JICA
Ms. Chie MATSUYAMA	Forestry Administration	Forestry Agency
Mr. Takuya SEKIGUCHI	Cooperation Planning	Staff, Forestry and Nature Conservation Division II, Global Env. Department, JICA
Ms. Mitsue UMIGUCHI	Evaluation Analysis	Consultant, CDC International Corporation
Mr. Amin KARIMI	Interpreter	

(2) The Iranian Team

Name	Title	Position
Mr. Ali Javaheri	Member	Deputy for Technical Affairs, NRWGO Fars
Mr. Rahman Tavakoli	Member	Head of Survey office, NRWGO Chaharmahal-va-Bakhtiari

1.3 Schedule of the Review Study

The review of the Project was conducted from September 29th to October 18th, 2012. The Joint Review Team (hereinafter referred to as “the Team”) collected the information through questionnaires and a series of interviews with Iranian Project Personnel and Japanese experts. Based on the results of the review, the Team prepared a draft report and finalized it through a series of discussions on October 15th and 16th

Chapter 2: Outline of the Project

2.1 Background of the Project

Bazoft is located in an important watershed for Karoon, Zayanderood and Dez River which provide water for about eleven million people. Furthermore, Zagros mountain range is a part of Irano-Anatolian Biodiversity Hotspot which includes many endemic species.

However, watersheds of Karoon River in Zagros area has been seriously degraded by decrease of forest and rangeland vegetation, due to overgrazing and cutting trees and shrubs for fuels and cultivation. The rapid vegetation loss also causes increased run off, debris flow and flood during heavy rainfall and rapid snow melting season.

From 1999 to 2002, JICA carried out the Development Study “Study of Watershed Management Plan for Karoon River in the Islamic Republic of Iran”, and the draft of the master plan has been submitted to the Islamic Republic of Iran (hereinafter referred as “I.R.of Iran”).

The government of I.R.of Iran has a policy to engage local people in all forest and rangeland management activities; however, is facing difficulties in introducing and adapting participatory approaches in Bazoft area. For above reason, I.R.of Iran requested technical cooperation with JICA in 2009. And Government of Japan dispatched a detailed planning survey team to Iran in 2009, and agreed on the Project outline with I.R. of Iran.

2.2 Summary of the Project

- (1) The Overall Goal: Participatory forest and rangeland management*1 is introduced in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province
- (2) The Project Purpose: The capacity of NRWGO for participatory forest and rangeland management is enhanced.
- (3) The Outputs:
 - 1) Output 1: The Capacity Development (CD) Strategy for NRWGO is indicated.
 - 2) Output2: Regeneration of forest and rangeland is promoted in the target villages.
 - 3) Output3: Alternative income source for forest and rangeland conservation are introduced in the target villages.
 - 4) Output4: The Capacity Development Plan for NRWGO with regard to participatory forest and rangeland management is formulated / implemented.

Chapter 3: Methodology of the Review

3.1 Data Collection Method

The Team made interviews with the Iranian Project Personnel and the Japanese experts engaged in the Project. The Team also collected information through questionnaires from the concerned personnel.

3.2 Items of Analysis

(1) Accomplishment of the Project

The accomplishment of the Project was measured in terms of the Inputs, the Outputs and the Project Purpose in comparison with the Objectively Verifiable Indicators of PDM as well as the plan delineated in the R/D.

(2) Implementation Process

The implementation process of the Project was reviewed to see if the Activities have been implemented according to the schedule delineated in the latest PO, and to see if the Project has been managed properly as well as to identify obstacles and/or facilitating factors that have affected the implementation process.

(3) Review based on the Five Evaluation Criteria

- (a) Relevance : Relevance of the Project was reviewed to see the validity of the Project Purpose and the Overall Goal in connection with the needs of the beneficiaries and policies of Iran and Japan.
- (b) Effectiveness : Effectiveness was analyzed by evaluating the extent to which the Project has achieved and contributed to the beneficiaries.
- (c) Efficiency : Efficiency of the Project implementation was analyzed focusing on the relationship between the Outputs and Inputs in terms of timing, quality, and quantity.
- (d) Impacts : Impacts of the Project were forecasted by referring to positive and negative impacts caused by the Project.
- (e) Sustainability : Sustainability of the Project was analyzed in institutional, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievement of the Project would be sustained and/or expanded after the Project is completed.

Chapter 4: Achievements and Progress of the Project

Collection of data for checking the achievement of the Project is done based on the PDM which is agreed at 2nd JCC held on November, 2011.

4.1 Records of Inputs

The records of inputs are summarized in ANNEX5-8. Inputs are done largely as planned except Output1.

4.2 Records of Activities

The records of activities are summarized in ANNEX9. Activities are implemented largely as planned.

4.3 Achievement of outputs

Achievement of Outputs is summarized in Table 4-1, 4-2, 4-3 and 4-4.

Table 4-1 Achievement of Output 1

Output 1: The Capacity Development Strategy for NRWGO is indicated.

Indicator	Achievement	Sources
Capacity Development Strategy Report will be prepared by June 2012.	<ol style="list-style-type: none"> 1) The Draft of the Capacity Development Report (CD-R, version 1) was developed reflecting the result of Baseline survey and related document. 2) Draft final report of CD-R was developed by the end of December, 2011 3) Final report of CD-R will be developed by the end of November, 2012 	<ul style="list-style-type: none"> - Experts - Draft CD-R

Table 4-2 Achievement of Output 2

Output 2: Regeneration of forest and rangeland is promoted in the target villages.

Indicators	Achievements	Sources
1) 75% of newly created Model Plots will achieve the purpose of establishment and maintained by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Training for guardsman was implemented in 2012. (Due to serious drought at Khuzestan area, many nomads have been stayed and grazed at Bazoft area. It was difficult to prevent them to enter model plot which was not set fence.) 3) Up to the end of September, 2012, 5 model plots were maintained as same as space of the beginning. 	<ul style="list-style-type: none"> - Experts - Survey and Report (2012.10)
2) 75% of newly created Model Plots are evaluated that vegetation are recovered by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Sample plots for monitoring and comparing the vegetation were set inside and outside of each Model Plot. 3) Regeneration of oak was confirmed at all Model Plots in 2012. 	<ul style="list-style-type: none"> - Experts - Survey and Report (2012.10)

Table 4-3 Achievement of Output 3

Output 3: Alternative income source for forest and rangeland conservation are introduced in the target villages.

Indicators	Achievement	Sources
1) Training program for CF candidate at least 5 persons	<ol style="list-style-type: none"> 1) The Training related VAP (Village Action Plan) for candidates of 27 CFs (Community Facilitator) was conducted in February 2011. 	<ul style="list-style-type: none"> - Experts - CF training

in each village are initiated by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 2) 15 CFs were selected through the work for prepare VAP specifically. 3) Preparation of document for progress of VAP and presentation workshop was conducted in April, 2012 (almost all CFs were participated). 4) Joint seminar of 5 villages for presentation (as an OJT) was conducted in May, 2012 (all CFs were participated). 5) Orientation was conducted in 2011. Training for Guardsman, prevention of forest fire, sewing, establishment of orchard and market survey with sewing lector were conducted in 2012. 	<p>plan</p> <p>- Annual report</p> <p>- VAP</p>
2) 70% of necessary number of CFs for VAP sub-project activities will be maintained by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 15 CFs were selected (3CFs at each village*5, CFs of forest & rangeland are 3, CFs of Fruit garden are 3 and CFs of livelihood improvement are 3). 	<p>- Experts</p> <p>- VAP</p> <p>- Annual report</p>
3) At least 1 village Action Plan will be conducted in each target village by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) VAP of each sector (forest & rangeland, agricultural development and livelihood improvement) at each target village is conducting at present. * Sewing Class: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Tarom & Robartkoh and Tabarak Sofla. * Orchard: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Tarom & Robartkoh and Tabarak Sofla. 	<p>- Experts</p> <p>- VAP</p>

Table 4-4 Achievement of Output 4

Output 4: The Capacity Development Plan for NRWGO with regard to participatory forest and rangeland management is formulated / implemented.

Indicators	Achievement	Sources
1) At least 5 CD modules will be conducted every year.	<ol style="list-style-type: none"> 1) Needs survey and logistic preparation were implemented, and PCM / PRA training were conducted in 2010. (1 module) 2) Training of PRA, Method of Information Collection, Rangeland Ecology, GIS, GPS and Forest Ecology were conducted in June and July, 2011. (6 modules) 3) Training of Pest and Disease Control, Rangeland Management, Forest Propagation and Reforestation, Innovation in Natural Resources Management and Agro forestry were conducted in October, 2011. (5 modules) 4) Training of PCM was conducted in March up to May, 2012. And around 7 training class are planning to conduct since September, 2012. 	<p>- Experts</p> <p>- Training courses plan</p> <p>- Report for training</p>

2) At least 60% of NRWGO technical staff will participate in CD program.	1) 45 NRWGO staff was participated in Training held on October and February, 2010. 2) 68 NRWGO staff was participated in Trainings held on June and July, 2011 and total 53 staff (26 NRWGO and 27 NRWGO) are participated Trainings held on October 2011. 3) 37 NRWGO staff was participated in Trainings held on May, 2012. 4) Around 250 participants are estimated to take part in coming training.	- Experts - Training courses plan - Report for training - Records
3) 50% of participants (who have attended PCM/PRA, participatory method module) in CD program have drafted/drafting at least a project design and/or a proposal.	1) 2010: PCM 28 participants, PRA 23 participants 2) 2011: PRA/Participatory Method 12 participants 3) 2012: PCM 37 participants * Practical task will be conducted since 2012.	- Experts - Training courses plan - Report for training - Records

4.4 Prospects of the Achievement of the Project Purpose and Over Goal

4.4.1 Achievement of Project Purpose

The achievement of Project purpose is summarized in Table 4-5.

Table 4-5 Achievement of Project Purpose

Project Purpose: The capacity of NRWGO for participatory forest and rangeland management is enhanced.

Indicators	Achievement	Sources
1) More than 70% of project participants in NRWGO will utilize knowledge / experience gained from the project.	- Around 80% of participants of training were satisfied with courses based on the result of interview. - Objectively verifiable data is not available.	- Experts - Annual report
2) More than 70% of project participants in target villages will value that NRWGO's capacity of forest & rangeland.	- Objectively verifiable data is not available. - It is early to assess the achievement of the indicator.	- Experts
3) 70% of project participants in target villages will be benefited by the project by December, 2014.	- Objectively verifiable data is not available. - It is early to assess the achievement of the indicator.	- Experts

4.4.2 Prospect of achieving Overall Goal

The situation related to the achievement of overall goal is summarized in Table 4-6.

Table 4-6 Situation related to the Achievement of Overall Goal

Overall Goal: Participatory forest and rangeland management in introduced in Chaharmahal- va- Bakhtiari Province.

Indicator	Situation	Source
By using the knowledge and experience gained from the Project, NRWGO will newly introduce participatory forest and rangeland management at least 1 village Chaharmahal- va- Bakhtiari Province.	<ul style="list-style-type: none"> - A kind of establishment of associated Project has started in a one of target village (Tarom) by NRWGO staffs who are in charge of community development and training activities on this project also has experience to attend the Capacity Development Training and Training in Japan. Further information will be needed, - It is too early to assess the achievement of the indicator. 	- Interview to C/Ps & Experts

4.5 Project Implementation Process

4.5.1 Implementation of the Activities and Achievement of the Outputs

Efforts and ingenious attempts made in various activities of the Project for the improvement of the quality have been contributing to the achievement of the outputs and the Project purpose by NRWGO and the Project. On the other hand, it seems that there remain to be improved as follows;

Implementation of the Monitoring

During the activities of training for C/P (Output 4), questionnaires and tests are conducted after training since this year. By feedback the results of them, it is going to be enhanced more to the coming trainings.

Relevance between each Output

Although achievements of each result of output are confirmed gradually, it is thought that it is the present condition that relation between each result is not built clearly. It is supposed that the logical relation between Project purpose and the outputs becomes clear by joining relation of each result together.

4.5.2 Management System

6 members of NRWGO experts have been engaged in this Project activities with their own tasks or mission. Having their very tight schedule, NRWGO experts have made opportunities to visit project site and dedicated themselves to those activities as possible. For example, some members have attempted to visit the site once a week and call to CFs and villager approximately every day. Their ambition to this project and active participation have made villagers change their understanding little by little and led to continue the activities. In addition, their needs for attendance to the training (output 4) are high. Many participants have been joined 15 classes up to now. It seems that the activity of the project can contribute to improvement of knowledge, technical skill and ability of the NRWGO experts. It may lead to the expansion of the potential at the same time. On the other hand, it seems that the participants have currently utilized lessons by the trainings for their own work but not for this Project. It is supposed if training participants are required to join forest and rangeland management and community development activities of this Project after trainings, the establishment of the enforcement system of the Iranian project side will

be enabled in future.

Also Japanese Project side, attempts and efforts have been made in various activities of the Project to maximize outputs even in limited dispatch period. For example, in the target area where it is difficult to adapt participatory approach because of their cultural and social background, the Project side tried smooth communication by allocation of Iranian personnel and experts who have comprehension on local situations. Sharing awareness through deep and continuous discussion with NRWGO will lead to manage the Project smoothly.

4.5.3 The situation of Important Assumption

Concerning present economic situation in Iran, the inflation tendency has been remarkably progressing by falling currency value. During the mid-term review survey, exchange rate of local currency of Rial fell by 18% in just a day; while it was 20,000 Rial/ US dollar a month ago, it values 30,000 Rial/ US dollar now.

4.5.4 Other stakeholders

Main projects of NRWGO are in the sector of forest, rangeland and watershed management to keep them in a good condition. Regarding the sewing class and establishment orchards implemented as the Project activities by instruction of NRWGO members who have enough experience in such a field work, the members are not responsible for these activities. For extension of those activities in the future, it is necessary to examine cooperation with MOJA.

Additionally UNDP is also implementing conservation project and they are interested in this Project. The FRWO staff who is expert of UNDP project has been in charge of training lecture of this project. In addition Project Coordinator of this Project has also been assigned as Project Manager of UNDP, who is familiar with UNDP project. Through information exchange between both sides according to needs, cooperation with UNDP seems to become a possible way.

Chapter 5: Summary of Review by the Five Evaluation Criteria

5.1 Relevance (Details are described in ANNEX10)

Considering the factors mentioned below, it is reasonable to conclude that the Project remains relevant.

The Overall Goal and Project Purpose are still relevant with the needs of Iran and target group (i.e. NRWGO, villagers in target area). They are still consistent with the national development plan (Fifth Five – Years Development Plan in Islamic Republic of IRAN) as well as the Official Development Assistance policies of Japan and Rolling plan of JICA. Japanese Technical advantage has been also confirmed.

5.2 Effectiveness (Details are described in ANNEX10)

Though it is expected that the effectiveness will be largely, there is still scope for improvement.

It is point out that it is not enough to collect related information and data regarding those

indicators of Outputs (especially about those activities of Output 3, and except Output 4) and Project Purpose. Questionnaires and Test was just started after training for NRWGO staff (Output 4) since this year. But data related those indicators such as a satisfaction survey was not conducted since project started. Keep record of those results also is needed.

Secondly, logical relation between already achieved outputs and the Project purpose is not clear up to now. Achievement of each output is appeared gradually, but synergetic effect is not expected.

5.3 Efficiency (Details are described in ANNEX10)

Inputs are done according to the plan of operation roughly. There is still scope for improvement.

Capacity Development Strategy Report:

Capacity Development Strategy Report was not completed until June 2012 when indicated in PDM as an indicator. Final Report both Japanese version and Persian version will be prepared by November 2012 according to the explanation by project experts.

Forest and Rangeland Management

All model plots for 'forest' have achieved the purpose of establishment and maintenance by October 2012. And natural regeneration is also confirmed at all 5 model plots. Training for protect against livestock at model plot was implemented as a flexible response. When it was the construction of check dam, local carpenter of village which knew the local circumstance well were hired to working for efficiency. On the other hand, activity as rangeland management has not been implemented. This project faces severe geographical condition. But the realization of the future activity plan is expected because of the needs from NRWGO.

About the activity of the alternative income source, it is necessary to define the positioning of the Community Facilitator. The result of those activities (3-1 to 3-5) is still obscure while the Project side has tried to make considerations of villager's opinions and backgrounds of villages. In addition, it seems that it is a role only as 'contact person', and CFs does not reach as a person for 'Dissemination'. It is necessary to consider how facilitate the villager's participation by CFs who is as 'contact person', or how it goes back up for positioning of original CF's role as a 'person for dissemination. More specifically, in case of Orchards establishment, a few or individual participant are conducted it. It might be able to take it as 'limited input'.

Progress of the training for C/Ps has been made mostly as planned in producing Outputs even though the period of dispatch of Japanese experts is short. As mention in previous chapter, it is better to bring an option into view that those trainees will join some activities of this project to put forest management and participatory development into action for the future.

Regarding the training in Japan, in total 14 C/Ps have participated up to now. Many participants have considered that it is possible that the forest management and the participatory management approach of citizens in Japan can be adopted their field in Iran.

5.4 Impacts (Details are described in ANNEX10)

The following two positive impacts have been observed.

NRWGO staffs who have attend training for C/Ps, training in Japan and in charge of community development activities has started a project at target area (Tarom). They have established corporation to assist forest management using participatory approach gained that knowledge and ways by this project.

Secondly, the vocational training school starts to emphasis considering set up some activities such as establish the loan system in Bazoft.

Negative impacts have not been observed. Some personnel change has made since this project has stared.

5.5 Sustainability (Forecast) (Details are described in ANNEX10)

It is reasonable to conclude that political, organizational and institutional sustainability of the achievement of the project is likely to be assured after completion of the project.

Prospect of the significant change of policy and institution are not expected according to the information by NRWGO staff. Budget for this project of NRWGO is also assured at the moment. On the other hand, engagement in alternative livelihood by NRWGO will be an issue in the future.

Technical and methods transferred through this project gradually.

Chapter 6. Recommendations and Lessons Learned

6.1 Recommendations

(1) Development of Guidelines for participatory forest and rangeland management

The Project is aiming at accumulating good practices for forest and rangeland regeneration/management by demonstration of several techniques in target villages, and is expecting Iranian experts to expand target area with developed techniques by the Project. Thus, to enable a prompt expansion, it is recommended for the Project to develop guidelines including items below;

a) Techniques for regeneration and sustainable utilization verified in the Project

In the Project, several techniques for regeneration and sustainable utilization of forest and rangeland will be demonstrated in the target villages, therefore the guidelines is expected to include detailed method of each technique, preliminary feasibility of the technique and considerations on management for a long span.

b) Participatory approach method

In the Project, a lot of experiences to involve villagers with activities for forest/ rangeland and community development will be accumulated, which include the acquisition of confidence of villagers, the site negotiation, the organization of villagers' group, the establishment of agreement among villagers, and the instruction for preparation and implementation of action plan towards villagers' group. Thus it is desirable to include these experiences in the guideline for extension activities in the future.

(2) Implementation of similar activities by Iranian experts

After the Project end, Iranian experts will utilize models for forest and rangeland management developed by the Project in additional villages. For enhancement of certainty for the expansion to be successful after the Project end, during the remaining period of the Project, it is desirable for Iranian experts to implement activities in an additional village by themselves with cooperation of Japanese experts with the established model applying.

(3) Further advancement of participatory approach

Due to social conditions like cultural backgrounds or confliction among villagers, villagers' participations have been limited so far in terms of both percentage of participating villagers out of the whole residents and consciousness of participants for voluntary sustainable forest management. As countermeasures against the present situation, the Project should promote participation of villagers, especially in steps of selecting CFs, enhanced excitation of villagers' expressions on their own points of view, obtainment of villagers' agreement, development and implementation of VAPs and establishment of protection areas.

(4) Strengthening activities for forest/ rangeland regeneration

Since forest and rangeland regeneration is a main objective of the Project, the Project needs to make continuous efforts to verify more diversified methods for the regeneration. From this viewpoint, it is recommended to examine following matters;

a) Development and demonstration of a variety of techniques including coppicing.

The Project is encouraged to develop and demonstrate other techniques besides natural regeneration. In relation to coppicing, although it is not permitted or not recommended by NRWGO in case of misleading villagers into unlimited logging, it might be one of the potential methods in Bazoft area and could be practiced with enough understandings of villagers.

b) Selection of target rangeland for demonstration of regeneration

Although the PDM includes rangeland regeneration, activities for rangeland have remained to be undertaken because of high extent of uncontrolled influences by semi-settled nomad as well as low accessibility to target rangelands, both of which exceeded the estimation at beginning of the Project. Taking these circumstances into consideration, it might be better to implement demonstration of regeneration in one selected place of rangeland.

(5) Rural development activities

In the Project, rural development activities have been conducted aiming at giving villagers incentives to participate in forest regeneration activities and introducing alternative income to animal husbandry. However the Project is facing several issues including attribution of responsibilities for a part of these activities to different organizations from NRWGO, and uncertain feasibility of alternative income. Therefore the Project is to examine some points

stated below;

a) Further Enhancement of rural development activities utilized forest and rangeland

In order to promote to give villagers incentive to protect forest and rangeland, in the latter half of the Project, the Project is expected to concentrate and precipitate activities where villagers are benefited directly from forest resources like mountain plants.

b) Promotion of marketing and financing

In order to secure the alternative income gain for villagers, it's supposed to be significant that the Project will examine a certain kind of model for governmental institutions to support villagers' marketing and financing. For this purpose, some trials to promote villagers to explore markets and obtain a loan or subsidies will be necessary.

(6) Enhancement of feedbacks of field activities to trainings

At the stage of the Project design, training courses conducted as activities for Output4 were intended to reflect lessons from field activities for the regeneration and rural development. However it is supposed that so far most of trainees have not necessarily acquired enough actual fields' examples in the training. Corresponding to these circumstances, it is expected to strengthen feedbacks of the field activities to the trainings as following;

a) Organizing experiences of field activities as training modules

It is expected to compile knowledge on the site which the Project has been experienced as a training module, especially concerning participatory method applicable to Bakhtiari tribe and female groups as well as advising on marketing and financing.

b) Increasing field training courses

Though the Project has already tried to implement field training at villages, it is desirable to increase number of training courses where trainees can practice the participatory approach in villages, especially in Bazoft area.

(7) Linkage with other relevant organizations

At the stage of the Project design, when the Project activities have proceeded, collaboration between other organizations was supposed to be considerable in order to assist sustainable activities in the target villages. Considering current situations, coordination with appropriate organizations, such as MOJA, Cultural Heritage, Handy Craft and Tourism Organization, Forest and Rangeland Technical Institute, Nomad Affairs Organization, Ministry of Road and Transportation, is recommended in order to sustain 1) technical demonstrations under a variety of natural, social conditions and 2) some rural development activities which responsibilities belong to other organizations.

(8) Modification of the PDM

Based on the item (1), the PDM should be modified in regards of insertions of activities for development of the guidelines in order to secure sustainability of the Project. And the Objectively Verifiable Indicator for the Overall Goal, the Project Purpose and each Output in

PDM are also to be modified in order to clarify definition. The draft of modified PDM (draft PDM version3), prepared through a series of discussions with the Project Personnel and the Japanese Experts, is attached as Annex 1. The modified PDM should be submitted to the meeting of JCC on 17 October 2012 for its review and approval.

(9) Improvement of implementation process

The Project is facing several operational issues stated in the previous chapter, thus it is desired to take measures following;

a) Periodical Meetings

The Project experts are encouraged to hold periodical meetings in order to facilitate the information sharing.

b) Assignment of Iranian local coordinator in NRWGO

Absence of Iranian personnel engaged in coordination in NRWGO has been a hindering factor for the Project activities to proceed. Therefore to the extent possible it is suitable to assign necessary Iranian personnel to such logistical tasks.

c) Monitoring achievements and feedback to the Project activities

Regarding the Project activities, while knowledge and understandings of CFs, participants and NRWGO officers are assessed through the verbal interview, works for monitoring based on indicators in the PDM as well as feedbacks to the activities have not been carried out. To grasp achievements of the outputs and modify the Project strategies according to the achievements, monitoring, recording and feedback to the activities for each output needs to be conducted.

(10) Dissemination of the Project achievements to other areas

Since Government of Iran is prioritizing participatory method, the Project outcomes will be applicable to the other areas in Iran, especially in Zagros area. In keeping with that the Project already accepted site visits by personnel working for the other project for natural resource conservation in the first half period, the Project is encouraged to disseminate the Project activities to the relevant institutions in a more positive manner.

(11) Preparation of post project strategy

In order to continue activities for forest/ rangeland management in Bazoft area by villagers and administrative organizations, NRWGO and the Project are to prepare the post-project strategy on the institutional and logistical matters besides the technical guideline, especially for following matters;

a) Continuous training of officers for outreach activities

It will be important after the Project end to continue established training courses and on-the-job trainings by the Project for developing enough number of human resources contributing participatory forest and rangeland management in Bazoft area. Thus the structure to build capacities of officers after the Project end needs to be examined in the

latter half period.

b) Implementation structure of post-Project activities

Besides structure for the human resource development, implementation structure for technical development and extension activities is required to be discussed, including assignments of human resources, coordination with other institutions and budget allocation. Concerning technical development, demonstrations of techniques will take a lot of time to complete because of long regenerate period of trees, fruit tree and mountain plants, hence NRWGO could continue to make efforts to take demonstrations after the Project end.

c) Other items to be dealt with

Furthermore, NRWGO is expected to make sure how to deal with several logistical issues including transportation for outreach activities after the Project end.

6.2 Lessons Learned

The Team identified a lesson described below, learned from the experience and knowledge acquired from the implementation of the Project.

- Complexity of land utilization relating public lands

Most of the Project area belong to public lands, but people in the area depend for their livelihood on such customary common utilization of the lands as they used to obtain advantage from in the past. Thus several conflictions among villagers had occurred at the step to make agreement to establish protection areas in public lands, and it took a lot of time to coordinate villagers' groups.

END of the REPORT

Annex 1: Revised Project Design Matrix (PDM)

16 October, 2012

Version 3

Project Title: The Participatory Forest and Rangeland Management Project in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province

Supervising Agency: Forest, Rangeland and Watershed Management Organization(FRWO). Implementing Agency: Natural Resources and Watershed Management General Office (NRWGO) Chaharmahal-va-Bakhtiari Province

Direct Beneficiaries: Staff of NRWGO Chaharmahal-va-Bakhtiari Province, Indirect Beneficiaries: Residents of Target Villages

Target Areas: 1) Chaharmahal-va-Bakhtiari Province, 2) Target Villages in Bazoft Area

Project Period: Five (5) years from 2010

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators ⁴	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal			
Participatory forest and rangeland management ¹ is introduced in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province	1. By using the knowledge and experience gained from the Project, NRWGO will newly introduce participatory forest and rangeland management at least 1 (one) village in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province	1 NRWGO Monitoring Report	There is no role change of NRWGO
Project Purpose			
The capacity of NRWGO for participatory forest and rangeland management is enhanced.	1. More than 70 % of project participants in NRWGO will utilize knowledge / experience gained from the Project. 2. More than 70 % of project participants in target villages will value that NRWGO's capacity of forest & rangeland management was enhanced NRWGO's attitudes was improved 3. 70 % of project participants in target villages will be benefited by the Project by December, 2014.	1. Result of the interview to the project participants(NRWGO) Result of the Test of C/P trainings 2. Result of the interview to the project participants(NRWGO) 3. Result of the interview to the project participants in the target villages	Substantial number of trained NRWGO staff will not leave the project
Outputs			
1. The Capacity Development(CD) ² Strategy for NRWGO is indicated.	1. Capacity Development Strategy Report will be prepared by June December, 2012.	1 Capacity Development Strategy Report	① There is no major policy change in forestry management, community development and capacity development of FRWO / NRWGO. ② There is no serious natural disaster which prevents regeneration of forest & rangeland, and introduction of alternative income source. ③ There is no serious economic recession in Iran. (Output 3)
2. Regeneration of forest and rangeland is promoted in the target villages.	1. 75% of newly created Model Plots will achieve the purpose of establishment and maintained by December, 2014. 2. 75% of newly created Model Plots are evaluated that vegetation are recovered by December, 2014.	1. Forest & Rangeland Regeneration Plan of each target village 2. Project Progress Report	
3. Alternative income source for forest and rangeland conservation are introduced in the target villages .	1. Training program for CF candidate at least 5 persons in each village are initiated by December, 2012. 2. 70% of necessary number of CFs for VAP sub-project activities will be maintained by December, 2014. 3. At least one (1) Village Action Plan will be conducted in each target village by December, 2014. 4. 50% of participants of sub-projects will be wanted to continue their activities after this project	1. Training Program for Community Facilitators 2. Village Action Plan Project Progress Report	
4. The Capacity Development Plan for NRWGO with regard to participatory forest and rangeland management is formulated / implemented.	1. At least 5 CD modules will be conducted every year 2. At least 60% of NRWGO technical staff will participate in CD program. 3. 50% of participants [who have attended "PCM, PRA, Participatory method "module,] in CD program have drafted/drafting at least a project design and/or a proposal.	1. The Capacity Development Plan for NRWGO 2. Project Progress Report	

Handwritten mark

39

Handwritten signature

Activities	Inputs		
1.1 Understand natural conditions and socio-economic situations of target areas.	Japan Side		
1.2 Understand problem and initiative for participatory forest & rangeland management.	(1) Japanese Experts 1) Chief Adviser 2) Participatory Community Development 3) Capacity Development/ Training 4) Participatory Forest & Rangeland Management 5) Project Coordinator		
1.3 Understand ongoing activities of similar projects in and out of the target area.			
1.4 Understand knowledge, capacity and willingness for participatory forest & rangeland management among the staff of NRWGO.			
1.5 Identify local resources and/or service providers for CD.			
1.6 Based on the information and data obtained, prepare Project Baseline Survey Report.	(2) International Training 1) Based on necessity for project implementation, Counterpart Training will be conducted in Japan or in the third country (one or two persons per year from counterpart personnel).		
1.7 Elaborate the CD Strategy for NRWGO.	(3) Equipment and Materials 1) Based on necessity, equipment and materials which are required for implementation of followings; ① Village Action Plan ② Training Program for Community Facilitators ③ Forest & Rangeland Regeneration Plan ④ The Capacity Development Plan for NRWGO		
1.8 Identify target villages for participatory forest & rangeland management, and introduction of alternative income source.			
2.1 Prepare operational-Plan Village Action Plans for Forest & Rangeland Regeneration in the target villages.			
2.2 Establish Model Plots in the target villages.			
2.3 Extract lessons & learns by analyzing previous similar projects.			
2.4 Discuss and agree common target/goal for protecting Model Plots with local residents of target villages.			
2.5 Based on the actual condition of Model Plots, implement regeneration operations.			
2.6 Based on the actual condition of the area, implement tree planting, agro-forestry and erosion control activities in the target villages.			
2.7 Based on the above activities, prepare a guideline for forest and rangeland regeneration.			
3.1 Prepare Village Action Plans for participatory forest & rangeland management of each target group in all target villages.			
3.2 Prepare plans for training programs for Community Facilitators who will assist CD.			
3.3 Identify/formulate people's organization in respective target village.			
3.4 Select participants for the training programs for Community Facilitators.			
3.5 Implement training programs for Community Facilitators.			
3.6 Implement CD programs for participatory forest & rangeland management to local residents of target villages.			
3.7 Monitor on the impact of the CD programs among program participants.			
3.8 Monitor and evaluate CD programs and obtain feedbacks.			
3.9 Based on the above activities, prepare a guideline for participatory forest & rangeland management			
4.1 Identify themes for CD program of NRWGO staff for each target group.			
4.2 Identify resource and service provider for CD program for NRWGO staff.			
4.3 Elaborate CD programs for participatory forest & rangeland management for NRWGO staff.			
4.4 Implement CD programs for participatory forest & rangeland management for NRWGO staff.			
4.5 Monitor on the impact of the CD programs among NRWGO staff.			
4.6 Monitor and evaluate CD programs and obtain feedbacks.			

Pre-Conditions

- ① There is political stability in Iran.
- ② There is no major change in the organizational set up of the FRWO/NRWGO in both Regional vis-à-vis National level.
- ③ There is no substantial decrease in the budget for FRWO/NRWGO.

*1 "Participatory Forest and Rangeland Management" is protection, utilization and regeneration of forest and rangeland management through participation and support of the people living nearby forest & rangeland.
 *2 "Capacity Development(CD)" is the process in which problem-managing skills are enhanced collectively at individual, organizational, and societal levels.
 *3 "Village Action Plan" contains the detailed design of activities for alternative income source that each target village will implement by applying the participatory methodology.

44

40

Handwritten signature

Annex 2: Plan of Operation and Actual Operation

Project Title: The Participatory Forest and Rangeland Management Project in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province
 Supervising Agency: Forest, Rangeland and Watershed Management Organization(FRWO). Implementing Agency: Natural Resources and Watershed

Project Period: Five(5) years from 2010

Activities	Responsible Organization	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				
		1st	2nd	3rd	4th	1st	2nd	3rd	4th	1st	2nd	3rd	4th	1st	2nd	3rd	4th	1st	2nd	3rd	4th	
1 The Capacity Development(CD) Strategy for NRWGO is indicated.		Working Section																				
1	Understand natural conditions and socio-economic situations of target areas.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 1 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 1, Q3]																			
2	Understand problem and initiative for participatory forest & rangeland management.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 2 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 2, Q1]																			
3	Understand ongoing activities of similar projects in and out of the target area.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 3 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 2, Q1]																			
4	Understand knowledge, capacity and willingness for participatory forest & rangeland management among the staff of NRWGO.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 4 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 1, Q2]																			
5	Identify local resources and/or service providers for CD.	① Technical Assistance	[Gantt chart: Activity 5 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 2, Q1]																			
6	Based on the information and data obtained, prepare Project Baseline Survey Report.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 6 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 2, Q1]																			
7	Elaborate the CD Strategy for NRWGO.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 7 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 3, Q1]																			
8	Identify target villages for participatory forest & rangeland management.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 8 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 1, Q2]																			
2 Regeneration of forest & rangeland is promoted in the target villages.		Working Section																				
1	Prepare operational Plan for Forest & Rangeland Regeneration in the target villages.	① Forestry Section ② Pasture Section	[Gantt chart: Activity 1 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 2, Q1]																			
2	Establish Model Plots in the target villages.	① Forestry Section ② Pasture Section	[Gantt chart: Activity 2 starts in Year 1, Q2 and ends in Year 2, Q2]																			
3	Extract lessons & learns by analyzing previous similar projects.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 3 starts in Year 1, Q1 and ends in Year 1, Q2]																			
4	Discuss and agree common target/goal for protecting Model Plots with local residents of target villages.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 4 starts in Year 1, Q2 and ends in Year 2, Q1]																			
5	Based on the actual condition of Model Plots, implement regeneration operations.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 5 starts in Year 2, Q1 and ends in Year 5, Q4]																			
6	Based on the actual condition of the area, implement tree planting, agro-forestry and erosion control activities in the target villages.	① Forestry Section	[Gantt chart: Activity 6 starts in Year 2, Q1 and ends in Year 5, Q4]																			

70

3 For forest & rangeland conservation, Action Plans for alternative income source of target villages are implemented.		Working Section																		
1	Prepare Village Action Plans for participatory forest & rangeland management of each target group in all target villages.	① Forestry Section																		
2	Prepare plans for training programs for Community Facilitators who will assist CD.	① Training and Extension Section																		
3	Identify/formulate people's organization in respective target village.	① Forestry Section																		
4	Select participants for the training programs for Community Facilitators.	① Forestry Section																		
5	Implement training programs for Community Facilitators.	① Training and Extension Section																		
6	Implement CD programs for participatory forest & rangeland management to local residents of target villages.	① Forestry Section																		
7	Monitor on the impact of the CD programs among program participants.	① Technical Committee																		
8	Monitor and evaluate CD programs and obtain feedbacks.	① Technical Committee																		
4 The Capacity Development Plan for NRWGO with regard to participatory forest and rangeland management is formulated / implemented.		Working Section																		
1	Identify themes for CD program of NRWGO staff for each target group.	① Forestry Section																		
2	Identify resource and service provider for CD program for NRWGO staff.	① Forestry Section																		
3	Elaborate CD programs for participatory forest & rangeland management for NRWGO staff.	① Forestry Section ② Pasture Section																		
4	Implement CD programs for participatory forest & rangeland management for NRWGO staff.	① Forestry Section ② Pasture Section																		
5	Monitor on the impact of the CD programs among NRWGO staff.	① Technical Committee																		
6	Monitor and evaluate CD programs and obtain feedbacks.	① Technical Committee																		

: Upper thin line; Ordinal plan
: Lower thick line; Actual progress and current plan in the remaining period

Handwritten mark

Handwritten signature

Annex 3: Schedule of Evaluation Mission

Date		Mr.Takata, Ms. Matsuyama Mr.Sekiguchi	Ms. Umiguchi
29-Sep	Sat		Tehran 10:25 (EK971) Courtesy Call to JICA Iran Office Courtesy Call and Interview with FRWO Tehran 17:20 → Isfahan 18 :25 (IR392), Move to Shahrekord
30-Sep	Sun		Courtesy Call to NRWGO (Explanation of review methods, scheduling) Individual Interview with Dr. Ataollah Ebrahimi, Individual Interview with Mr. Farzad Rezazade, Ms. Bahareh Toufighi
1-Oct	Mon		Individual Interview with Mr. Alimohammad Mohammadi Interview with C/P training member (Mr. Shahin Drakhshan, Mr. Soleiman Bahmani and Ms. Arezo Banihashimi) Individual Interview with Dr. Osman Atif
2-Oct	Tue		Site Visit to Gazestan- Mazerashte- Durak Sofla Interview with CFs/Guard-men/ Villagers/ dressmaking school
3-Oct	Wed		Site Visit to Tarom- Tabarak Sofla- Robotkoh Interview with CFs/Guard-men/ Villagers/ dressmaking school
4-Oct	Thu		Document Preparation (Summary of field visit & Interview)
5-Oct	Fri		Document Preparation (Summary of field visit & Interview)
6-Oct	Sat		Visit Training Course (Pest and Diseases Control) Individual Interview with Mr. Atsushi Hisamichi
7-Oct	Sun		Individual Interview with Mr. Fakhroddin Karimzade and Mr. Shahin Drakhshan Individual interview with Ms. Saori Takei
8-Oct	Mon	Tehran 10:25 (EK971) Courtesy Call to JICA Office 13:00 Courtesy Call to FRWO Tehran 17:20 → Isfahan 18 :25 (IR392), Move to Shahrekord	Individual interview with Ms. Seichi Mishima Document Preparation
9-Oct	Tue		Courtesy Call to NRWGO First Joint Review Committee (Explanation of the survey purposes • methods, Presentation by Experts, Discussion) Group Interview to Mr. Shahram Jazayeri, Mr. Farzad Rezazade
10-Oct	Wed		Site visit to Nursery and Training room Interview at MOJA Koohrang Office Site Visit to Gazestan village
			Move to Shahurekord
11-Oct	Thu	Site Visit to Tabarak sofla, Durak Sofla, Tarom- Robotkoh villages Interview with Villagers/CFs	Document Preparation
12-Oct	Fri	Site Visit to Mazerashte village Move to Shahrekord	Document Preparation
13-Oct	Sat		Interview to Mr.Alimohammad Mohammadi Interview to Mr. Fakhroddin Karimzade Interview to Dr. Ataollah Ebrahimi Interview at Forest and Rangeland Research Institute
14-Oct	Sun		Discussion with Japanese Expert on the Project
15-Oct	Mon		Discussion with Japanese Experts on the Report especially in Recommendation
16-Oct	Tue		Second Joint Review Committee to sign to the Report inviting Discussion with Dr. Ebrahimi, Mr. Mohammadi Preparation of final draft of M/M Meeting with Mr.Parviz Garshasbi (Confirmation of contents of M/M and the Report by FRWO, NRWGO, Japanese Experts)
17-Oct	Wed		JCC (progress report, evaluation report , discussion) / Sign to M/M (if possible) Isfahan 22:50 → Tehran 24:05 IR237 (Fokker 100)
18-Oct	Thu		10 :00 Report to JICA Iran 14 :00 Courtesy Call and Report to Emabssy of Japan (EOJ) Tehran 21:45→

7/20

Annex 4: List of Main Interviewees

1 Iranian Side			
1) Experts (FRWO)			
Mr. Hossein Ali Mohammadi	Forest Expert, International Project Section, Deputy for Watershed Management		29 Sep.
Ali Chananeh	Advisor for Deputy Head		8 Oct.
Mr. Rafeey Mabady	Director General for Disaster and Flooding Area Affairs		8 Oct.
Mr. Parviz Garshasbi	Deputy Head for Arid and Semi-Arid Region and Deputy Head for Watershed Management		17 Oct.
2) Experts (NRWGO)			
Dr. Ebrahimi Ataollah	General Director of NRWGO, Project Manager		30 Sep.
Ms. Bahareh Tofighi	Participatory Forest and Rangeland Management, Counterpart (Output2)		30 Sep.
Mr. Farzad Rezazade	Participatory Community Development, Counterpart (Output3)		30 Sep.
Mr. Alimohammad Mohammadi	Technical Affairs Deputy, Deputy Project Manager		1 Oct.
Mr. Shahin Drakhshan	Capacity Development / Training, Counterpart (Output4)		1 Oct.
Mr. Soleiman Bahmani	Head of training and extension		1 Oct.
Mr. Fakhroddin Karimzade	Participatory Forest and Rangeland Management, Counterpart (Output2)		7 Oct.
Mr. Hossein Bahrami	Watershed Management Deputy		9 Oct.
Mr. Ali Mohammadai Moghadam	Preservation and Land Deputy		9 Oct.
Mr. Esmail Salehi	Logistic affairs Deputy		9 Oct.
Mr. Shahram Jazayeri	Participatory Community Development, Counterpart (Output3)		9 Oct.
Mr. Bahman Kheiri	Head of Bazoft office, Field Counterpart		11 Oct.
3) Stakeholders (Other organizations)			
Dr. Zarir Seadi	Lecturer of C/P training (pest a& diseases control)		6 Oct.
Mr. Dehghan Shahrani	Manager, MOJA Koohrang Office		10 Oct.
Mr. Abas Fhoskari	Manager, MOJA Bazoft Office		10 Oct.
Mr. Raisian	Director, Forest Rangeland Research Institute		13 Oct.
2 Japanese Side			
1) Experts and Project staff			
Mr. Seiichi Mishima	Chief Advisor/Forest and Rangeland management(I)		30 Sep.
Ms. Saori Takei	Participatory Community Development / Project Coordinator		30 Sep.
Ms. Osman Atif	Capacity Development/Training		30 Sep.
Mr. Farzin Fard	Interpreter		30 Sep.
Mr. Mehdi Goodarzi	Interpreter		30 Sep.
Mr. Shahin Arab	Interpreter		30 Sep.
Mr. Atsushi Hisamichi	Participatory Forest & Rangeland Management		6 Oct.
2) JICA Office			
Mr. Yasuto Takeuchi	Chief Representative		29 Sep.
Mr. Hideki Yukihira	Project Formulation Advisor		29 Sep.
Mr. Kenta Ono	Representative		29 Sep.
Mr. Ramin Bgher	Staff		29 Sep.

Annex 5: List of Inputs (Assignment of Iranian Experts/ Counterparts and Japanese-side Experts)

1. Assignment of Iranian Experts

(1) Project Director

	Name	Position in the Organization	Assignment Period
1.	Mr.Mohammad Reza Shojaee	Deputy Head for Watershed Management	June, 2010~April, 2012
2.	Mr.Parviz Garshasbi	Deputy Head for Arid and Semi-Arid Region and Deputy Head for Watershed Management	May, 2012~Present

(2) Project Managers

	Name	Position in the Organization	Project Assignment Period
1.	Mr. Sabzali Kaviani	General Director of NRWGO	June, 2010~March, 2011
2.	Dr. Ataollah Ebrahimi	General Director of NRWGO	April, 2011~Present

(3) Technical Experts (12 persons from NRWGO)

Current personnel

	Name	Position in the Organization	Role in the Project
1.	Mr.Alimohammad Mohammadi	Deputy for Technical Affairs of NRWGO	Deputy Project Manager
2.	Mr. Hossein Ali Mohammadi	Forest Expert, International Project Section, Deputy for Watershed Management	Project Coordinator
3.	Ms. Bahareh Tofighi	Expert of evaluation	Participatory Forest and Rangeland Management
4.	Mr. Fakhroddin Karimzadeh	Expert of NRWGO	Participatory Forest and Rangeland Management
5.	Mr. Farzad Rezazadeh	Expert of study office	Participatory Community Development
6.	Mr. Shahram Jazayeri	Head of forestry office	Participatory Community Development
7.	Mr. Shahin Drakhshan	Expert of forest office	Capacity Development / Training
8.	Mr. Soleiman Bahmani	Head of training and extension	Capacity Development / Training
9.	Mr. Behzad Mokhtari	Head of NRWGO Koohrang	Field counterpart
10.	Mr.Bahman Kheiri	Head of Bazoft office	Field counterpart
11.	Dr.Yusefi	General Director of Forest Resource Office under Deputy for Arid and Semi-Arid Regions	
12.	Ms.Fatemeh Hatami	Expert for Forest Resource Office under Deputy for Arid and Semi Arid Regions	Main Counterpart

Former personnel

	Name	Position in the Organization	Role in the Project
1.	Ms. Arezoo Banihashimi		Capacity Development / Training
2.	Mr. Mr.Naghiour	Head of NRWGO Koohrang	Field counterpart

2. Assignment of Japanese-side Experts (6 persons in total)

(1) Dispatch of Japanese-side Experts

	Field	Name (Organization)	Dispatch Period	Responsible Outputs / Activities of PDM
1.	Chief Advisor/ Participatory Forest and Rangeland management (1)	Mr. Seichi Mishima	2010/7/9/ - 2010/8/14	Responsible for the whole scope Output1, 2
2.			2010/11/4 - 2010/12/23	
3.			2011/2/3 - 2011/2/28	
4.			2011/6/10 - 2011/7/18	
5.			2011/10/6 - 2011/11/18	
6.			2012/4/20 - 2012/6/10	
7.			2012/9/14 - 2012/11/24	
1.	Sub Leader/ Participatory Forest & Rangeland Management (2)	Mr. Atsushi Hisamichi	2010/7/16 - 2010/8/14	Responsible for Output2
2.			2010/10/4 - 2010/12/2	
3.			2011/6/21 - 2011/8/2	

	Field	Name (Organization)	Dispatch Period	Responsible Outputs / Activities of PDM
4.			2011/9/12 – 2011/10/28	
5.			2012/2/21 – 2012/3/11	
6.			2012/5/20 – 2012/7/13	
7.			2012/10/2 – 2012/10/31	
1.	Participatory Community Development (1)	Mr. Gholamhossein Shokohifard	2010/9/19 – 2010/10/18	Responsible for Output3
2.			2010/11/14 – 2010/12/23	
3.			2011/1/3 – 2011/1/22	
4.			2011/7/7 – 2011/8/15	
5.			2011/11/10 – 2011/12/1	
6.			2012/2/20 – 2012/3/15	
7.			2012/4/12 – 2012/5/7	
8.			2012/8/23 – 2012/9/13	
1.	Coordinator/ Participatory Community Development (2)	Ms. Saori Takei	2010/7/9 – 2010/8/14	Responsible for Output3
2.			2010/9/10 – 2010/11/11	
3.			2010/11/24 – 2010/12/23	
4.			2011/1/31 – 2011/2/26	
5.			2011/6/10 – 2011/8/25	
6.			2011/9/25 – 2011/12/5	
7.			2012/4/2 – 2012/5/31	
8.			2012/7/22 – 2012/8/16	
9.			2012/9/23 – 2012/11/24	
1.	Capacity Development (1)/ Training	Ms. Osman Atif	2010/7/16 – 2010/8/14	Responsible for Output4
2.			2010/9/23 – 2010/11/6	
3.			2011/6/10 – 2011/7/25	
4.			2011/10/4 – 2011/11/1	
5.			2012/9/7 – 2012/11/10	
1.	Capacity Development (2)	Mr. Shoichi Yamashita	2010/9/23 – 2010/10/24	Responsible for Output4
2.			2011/2/3 – 2011/2/28	
3.			2012/2/21 – 2012/3/13	
4.			2012/4/20 – 2012/6/2	

(2) Engagement of Japanese-side Experts in the Project in Japan

	Field	Name (Organization)	Period	Responsible Outputs / Activities of PDM
1.	Chief Advisor/ Participatory Forest and Rangeland management (1)	Mr. Seiichi Mishima	2010/7/1 - 2010/7/5 (In Japan)	Responsible for the whole scope Output1, 2

3/9

Annex 6: List of Inputs (Counterpart Trainings)

List of Iranian Personnel trained in Japan (14 persons in total)

	Name	Position/Organization	Training Period	Title of Training Course	Remarks
1.	Mr. Mohammadreza Shojaei	Deputy for Watershed Management, FRWO	January 9~29, 2011 (21days)	Forest & Rangeland Course	Project Director
2.	Mr. Alimohammad Mohammadikharaji	Deputy for Technical Affairs, NRWGO			Deputy Project Manager
3.	Mr. Hosseinali Mohammadi	International Project's Section, Watershed Management Deputy, FRWO			Project Coordinator
4.	Mr. Shahin Derakhshan	Forestry Expert, Technical Affairs, NRWGO			Counterpart of Training
5.	Mr. Mohamad Imani	Head of programming and Coordination Group, FRWO	January 26~ February 9, 2012 (15days)	Forest & Rangeland Course	
6.	Dr. Ataollah Ebrahimi	General Director, NRWGO			Project Manager
7.	Ms. Bahareh Tofjghi	Head of Study Office, NRWGO			Counterpart of Forest & Rangeland
8.	Mr. Fakroddin Karimizadeh	Secretary of General Director, NRWGO			Counterpart of Forest & Rangeland
9.	Mr. Parviz Garshasbi	Deputy Head for Arid and Semi-Arid Region and Deputy Head for Watershed Management, FRWO	July 17~31, 2012 (15days)	Community Development and Organization Capacity Development Course	Project Director
10.	Mr. Ali Javaheri	Deputy for Technical Affairs, NRWGO in Fars Province			
11.	Mr. Jamal Mousavi	Watershed Management Deputy, NRWGO in Zanjan Province			
12.	Mr. Shahram Jazayeri	Head of Forestry Office, NRWGO in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province			Counterpart of Community Development
13.	Mr. Hossein Bahrami	Watershed Management Deputy, NRWGO in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province			
14.	Mr. Behzad Mokhtari	Koohrang Office (NRWO), NRWGO in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province			Field Counterpart

39

Annex 7: List of Inputs (Equipment Provided)

No	Equipment	Maker	Model	Quantity	Currency	Total price	Allocation
1	Desktop computer	Individual	-	1	IRR (JPY)	7,673,500 (69,061)	Project office
2	Laptop computer	Dell	Vostro 3500	2	IRR (JPY)	7,025,000 (56,200)	Project office
3	Copy machine	Sharp	AR 2120J	1	IRR (JPY)	21,300,000 (191,700)	Bazoft office
4	Laser Printer (color)	HP	5550	1	IRR (JPY)	34,300,000 (274,400)	Project office
5	Laser Printer (black)	HP	2035n	1	IRR (JPY)	3,600,000 (28,800)	Project office
6	Projector	Optima	EP7155	1	IRR (JPY)	14,240,000 (113,920)	Project office
7	Screen	-	150x150	1	IRR (JPY)	760,000 (6,080)	Project office
TOTAL						IRR 88,898,500 (JPY 740,161)	

Za

[Handwritten signature]

Annex 8: List of Inputs (Items of Operational Costs)

1) Japanese side (unit: thousand Japanese Yen)

Item	/ thousand Japanese Yen			TOTAL
	1 st year	2 nd year	3 rd year (Plan)	
Local costs for Output2	0	5,116	4,240	9,356
Local costs for Output3	Direct management	0	2,574	3,995
	Sub-contract	0	441	2,741
Local costs for Output4	837	680	3,320	4,837
Counterpart training	7,194	5,696	6,904	19,794
Provision of equipment	796	0	0	796
Other Sub-contract	2,010	0	0	2,010
Hiring local staff	5,085	4,337	6,789	16,211
Other expenditures	4,546	2,470	3,194	10,210
Total	20,468	21,314	42,740	84,522

- ✓ Sub-contract includes a socio-economic survey for Output1 in 2010 and sewing training in 6sites related to Ouput3
- ✓ Hiring local staff includes trainers for PRA training for Output1 in 2010 and interpreters in 2010 to 2012
- ✓ Other expenditures include consumable supplies, equipment maintenance, transportation, car rental, communication cost, documents translation, facilities maintenance, training for NRWGO staffs, Action plan cost in target villages and miscellaneous.
- ✓ 3rd year (2012) costs are estimation at February 2012.

2) Iranian side

- ✓ The operational costs borne by the Iranian side was not clarified.
- ✓ The main items of burden of the Iranian side are working space in Shahrekord Office, Bazoft field office and guesthouse, a training room in a nursery institution

Annex 9: Progress of the activities

Activity	Progress	Information Source
1-1 Understand natural conditions and socio-economic situations of target areas.	<ul style="list-style-type: none"> - Interviewing to experts of NRWGO - Collection, translation and analysis of references including articles, statistics and several brochures on forests and medicinal plants in Zagros through 1st to 3rd years 	1 st year, 2 nd year report PO2012.02
1-2 Understand problem and initiative for participatory forest & rangeland management.	<p>1st year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Interviewing experts of NRWGO and villagers - Implementation of socio-economic survey at 10 villages, resulting to grasp actual situations on forest and rangeland - Collect detailed information on 5 selected villages among above 10 by conducting PRA survey <p>2nd year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Collection and translation of 4th Plan of NRWGO and enactments related to forest and rangeland <p>3rd year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Information collection necessary for progress of activities 	Draft Capacity Development Strategy report Monthly reports 1 st year, 2 nd year reports
1-3 Understand ongoing activities of similar projects in and out of the target area.	<p>1st year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Field survey at 3 sites where NRWGO established protection areas of forest and rangeland - Documents collection on similar past projects conducted in Bazoft <p>2nd and 3rd years</p> <ul style="list-style-type: none"> - Information collection on a project by UNDP in Iran - Planning to visit to sites of the UNDP project on October, 2012 	Monthly reports
1-4 Understand knowledge, capacity and willingness for participatory forest & rangeland management among the staff of NRWGO.	<p>1st year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Interviewing experts of NRWGO and intellectuals in 5 target villages - Site investigation on NRWGO activities in 5 target villages - Holding a meeting with 6 experts for sharing common recognition on participatory approach 	ditto
1-5 Identify local resources and/or service providers for CD.	<p>1st year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Interviewing relevant personnel at Shahrekord University and forest and rangeland technical institute <p>2nd and 3rd years</p> <ul style="list-style-type: none"> - Interviewing experts of NRWGO and villagers on potential collaborators to acquire local resources necessary for field activities 	ditto
1-6 Based on the information and data obtained, prepare Project Baseline Survey Report.	<ul style="list-style-type: none"> - Compiles results of above investigations as the socio economic survey report on 10 villages, the PRA report in 5 target villages and an interview report 	Socio economic survey report PRA report
1-7 Elaborate the CD Strategy for NRWGO.	<p>1st year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Development of CD strategy report version 1 <p>2nd year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Elaboration of the report to CD strategy report version 2 <p>3rd year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Finalization of the report - To complete translation of final version of the report by the end of 3rd year 	Draft Capacity Development Strategy report

<p>1-8 Identify target villages for participatory forest & rangeland management, and introduction of alternative income source.</p>	<p>1st year - Extraction of relevant items from basic and socio-economic data of 10 villages - Examination and identification of 5 appropriate villages out of 10 villages - Definition of 5 villages as target villages on October, 2010</p>	<p>Minutes of Meeting of JCC</p>
<p>2-1 Prepare Village Action Plans for Forest & Rangeland Regeneration in the target villages.</p>	<p>2nd year - Preparation of common activities in 5 villages at the beginning of 2nd year - Development of village action plan (VAP) for each village respectively on July to October, 2011 3rd year - Development of action plan for 3rd year for each village in a participatory manner on May to June, 2012</p>	<p>Monthly reports</p>
<p>2-2 Establish Model Plots in the target villages.</p>	<p>2nd year - Establishment of one protection area in each village with agreement among villagers' group</p>	<p>2nd year report</p>
<p>2-3 Extract lessons & learns by analyzing previous similar projects.</p>	<p>2nd year - Design detail methods to manage protection area based on the results of 1st year investigation and available budget</p>	<p>1st year, 2nd year report</p>
<p>2-4 Discuss and agree common target/goal for protecting Model Plots with local residents of target villages.</p>	<p>2nd year - Agreement on establishments of model protection area with villagers' group on July to September, 2011 - Agreement on detailed places of protection areas with relevant personnel through having meetings more than 3 times in each village</p>	<p>Monthly reports, 1st year, 2nd year report</p>
<p>2-5 Based on the actual condition of Model Plots, implement regeneration operations.</p>	<p>2nd year - Conclusion of village action plan for participatory forest and rangeland management for each village - Undertaking construction of fences, hiring of guard-men and establishment of regeneration plots 3rd year - Continuation of regeneration operations and monitoring</p>	<p>Monthly reports, 1st year, 2nd year report</p>
<p>2-6 Based on the actual condition of the area, implement tree planting, agro-forestry and erosion control activities in the target villages.</p>	<p>1st year - Agreement on priorities among several activities such as plantation of trees, agroforestry and soil erosion control with villagers' group for each village 2nd year - Conclusion of village action plan for the prioritized activities 2nd year and 3rd years - Continuation of operations based on the village action plans</p>	<p>Monthly reports, VAPs, 1st year, 2nd year report</p>
<p>3-1 Prepare Village Action Plans for participatory forest & rangeland management of each target group in all target villages.</p>	<p>(In regards of VAP, three kinds of VAP have been prepared for forest and rangeland regeneration activities, agricultural activities and livelihood improvement activities.) 2nd year - Development of VAP for forest and rangeland activities for both 2nd year and whole the Project period on September, 2011 - Development of VAP for agricultural development for 2nd year in September, 2011 3rd year - Development of VAP for forest and rangeland activities for 3rd year in 2012 - Development of VAP for agricultural development for 3rd year in July,</p>	<p>ditto</p>

3a

	<p>2012</p> <ul style="list-style-type: none"> - Development of VAP for livelihood improvement for 3rd year in April, 2012 	
3-2 Prepare plans for training programs for Community Facilitators who will assist CD.	<ul style="list-style-type: none"> - Not preparing formal document concerning detailed and long term plan of Community Facilitators (CFs) trainings, because of remarkable diversity of training needs and necessity of dealing with the needs at proper timing - Briefly planning the CF training for each training area, year 	Monthly reports, 1 st year, 2 nd year report
3-3 Identify/formulate people's organization in respective target village.	<p>2nd year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Organization of villagers' group for each activity, considering there is not any civil organizations to practice the participatory method in the area; Villagers' groups are divided to three groups for each village, forest and rangeland group, agricultural group and livelihood improvement group. In addition, forest and rangeland group comprises a few sub-groups such as fencing, check-dam and medicinal plants sub-group. - Not building villagers' groups in relation to mountain plants and bee keeping 	VAPs
3-4 Select participants for the training programs for Community Facilitators.	<p>1st year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Selection of CFs mainly as liaison personnel in PRA workshops held on November, 2010, in case of stimulation of conflicts among villagers by choosing CFs as a central players of activities - Seeking appropriate concepts of CFs acceptable for existing authorities in Bazoft area - Clarification of criteria for selecting CFs in February, 2011 and examining potential CFs for VAPs creation <p>2nd year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Listing candidates for CFs for every activity area in village workshops implemented in 2011 - Determination of CF through processes to make detail plan of activities and sign to VAPs after the workshop 	Monthly reports, 1 st year, 2 nd year report
3-5 Implement training programs for Community Facilitators.	<p>1st year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Conducting group trainings for VAP preparation two times, inviting candidates for CFs from every 2 or 3 villages in each training in February 2011 <p>2nd year</p> <ul style="list-style-type: none"> - Offering trainings on the site towards CFs and group members for each activities' area respectively, by several ways including 1) holding meetings to develop VAPs, 2) ensuring on-the-job training through implementation of activities, 3) visiting to advanced orchard site and 4) providing technical trainings like guard-men, orchard plantation, mountain plants seeding and sawing trainings 1 to 2 times respectively for each village (;an exception is sawing trainings which have been provided for 460 hours to each village) 	Monthly reports, VAPs, 1 st year, 2 nd year report
3-6 Implement CD programs for participatory forest & rangeland management to local residents of target villages.	<p>2nd and 3rd years</p> <ul style="list-style-type: none"> - Implementing activities for participatory forest and rangeland management based on the VAPs - Examination of actual undertaking of mountain plants and bee-keeping activities 	Monthly reports, VAPs, 1 st year, 2 nd year report
3-7 Monitor on the impact of the CD programs among program participants.	<ul style="list-style-type: none"> - Not implementing monitoring on the impact yet, except personal interviews to participating villagers by experts with lack of monitoring format 	Monthly reports, 1 st year, 2 nd year report

[Handwritten mark]

[Handwritten signature]

3-8 Monitor and evaluate CD programs and obtain feedbacks.	2 nd year - Implement evaluation of activities and examination of plans for next year for each area on November, 2011, at the end of 2 nd year	Monthly reports, VAPs
4-1 Identify themes for CD program of NRWGO staff for each target group.	1 st year - Implementation of need survey to experts of NRWGO - Determination of training policy based on the results of need survey, which mentioned that contents of training comprise 5 modules and at least trainings for 5 modules should be conducted every year.	Monthly reports, 1 st year, 2 nd year report
4-2 Identify resource and service provider for CD program for NRWGO staff.	1 st year - Investigation and identification of necessary items and providing sources for trainings including training space and trainers 1 st and 2 nd years - Preparation of training room and necessary resources equipment	ditto
4-3 Elaborate CD programs for participatory forest & rangeland management for NRWGO staff.	- Preparation of training plan concerning detailed contents, schedule, place and trainers based on the developed training policy	ditto
4-4 Implement CD programs for participatory forest & rangeland management for NRWGO staff.	1 st to 3 rd year - Implementing training courses for officers based on the plan inviting 45 personnel (including 6 counterpart experts, 21 managerial officers and 18 general officers) in 1 st year, 121 personnel (68 in June and July, 53 in October) in 2 nd year, 280 personnel (37 in May, 182 in autumn)	ditto
4-5 Monitor on the impact of the CD programs among NRWGO staff.	1 st to 3 rd years - Conducting evaluation of training by taking hearing from trainees using questionnaire	ditto
4-6 Monitor and evaluate CD programs and obtain feedbacks.	1 st to 3 rd years - Conducting evaluation of training plan of the year and feedback to next year	ditto

30

ANNEX 10: Evaluation of Five Evaluation Criteria

I. Relevance: Considering the factors mentioned below, it is reasonable to conclude that the Project remains relevant.

Item		Evaluation	Information Source
Necessity	Relevance with the needs implementing organization and people in Bazoft	<p>Project purpose is consistent with the needs of target group (i.e. NRWGO, villagers at 5 village in Bazoft)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Deforestation is advancing in Bazoft because of overgrazing. - It is urgent issue to protect target area against natural deserter. - NRWGO recognizes that it is necessary to obtain knowledge and skill regarding community participation for staff to realize to their works. - Improvement livelihood is expected by villagers in Bazoft. 	Interview Review of relevant document
	Relevance with national plan of Iran	<p>Project purpose and Overall goal are consistent with development plan of Iran</p> <ul style="list-style-type: none"> - In the Fifth Five years Development Plan of the Islamic Republic of Iran (March 2011), environmental protection and improvement of livelihood are identified as priority subjects in Iran. 	Review of relevant document
Priority	Relevance with ODA policies of Japan	<p>Project purpose and Overall Goal are consistent with ODA policy of Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> - Environmental Conservation, Water resource management and Reduction of gap between urban rural areas are prioritized sectors of cooperation in Japan's ODA policy towards Iran. 	ditto
Adequacy	Approach	<p>NRWGO has ever implemented forest and rangeland management project, but the progress and achievement are not sufficient because of the lack of the community participation. Based on that experience, planning and implementation of forest and rangeland management project and utilize the natural resources combined with keeping alternative income resource are required to emphasize of effectiveness their project.</p>	Review of relevant document Questionnaire
	Target area and target group	<ul style="list-style-type: none"> - Target villages were selected using utilizable indicators such as productivity of forest and rangeland, recourse of income and expenditure, acknowledgement of environmental changes, experience of floods and expectation of improvement their life based on the results of baseline survey. - Target model plots were selected considering feasibility by using criteria such as accessibility, geography, vegetation, dimension, landownership, impact for exhibition and villager's opinion. - List of CF candidates were prepared when village workshop was conducted. Then CF who has been leading role was selected. 	Interview Review of relevant document 1 st year's report
	Technological advantage of Japan	<ul style="list-style-type: none"> - The Japanese experience in forest management, which can provide a plenty of cases and lesson and learned through different experience that is not only domestic forestry but also many ODA projects all around the world, have been useful and suggestive. - There are many projects adopting Participatory methods, planed and implemented by JICA. Those projects have been loaded of lessons. 	Relevant Document Questionnaire

Handwritten mark

Handwritten signatures

2. Effectiveness (Prospect): Though it is expected that the effectiveness will be largely, there is still scope for improve.

Item	Evaluation	Information Source								
Achievement level of outputs	<p>Output 1:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="309 353 568 389">Indicator</th> <th data-bbox="568 353 1311 389">Achievement</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="309 389 568 613">Capacity Development Strategy Report will be prepared by June 2012.</td> <td data-bbox="568 389 1311 613"> <ol style="list-style-type: none"> 1) The Draft of the Capacity Development Report (CD-R, version 1) was developed reflecting the result of Baseline survey and related document. 2) Draft final report of CD-R was developed by the end of December, 2011 3) Final report of CD-R will be developed by the end of November, 2012 </td> </tr> </tbody> </table>	Indicator	Achievement	Capacity Development Strategy Report will be prepared by June 2012.	<ol style="list-style-type: none"> 1) The Draft of the Capacity Development Report (CD-R, version 1) was developed reflecting the result of Baseline survey and related document. 2) Draft final report of CD-R was developed by the end of December, 2011 3) Final report of CD-R will be developed by the end of November, 2012 	<p>1st year, 2nd year report</p> <p>Interview</p> <p>Progress report</p> <p>Questionnaire</p>				
	Indicator	Achievement								
	Capacity Development Strategy Report will be prepared by June 2012.	<ol style="list-style-type: none"> 1) The Draft of the Capacity Development Report (CD-R, version 1) was developed reflecting the result of Baseline survey and related document. 2) Draft final report of CD-R was developed by the end of December, 2011 3) Final report of CD-R will be developed by the end of November, 2012 								
	<p>Output 2:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="309 676 568 712">Indicators</th> <th data-bbox="568 676 1311 712">Achievements</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="309 712 568 945">1) 75% of newly created Model Plots will achieve the purpose of establishment and maintained by December, 2014.</td> <td data-bbox="568 712 1311 945"> <ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Training for guardsman was implemented in 2012. (Due to serious drought at Khuzestan area, many nomads have been stayed and grazed at Bazoft area. It was difficult to protect them to enter model plot which was not set fence.) 3) Up to the end of September, 2012, 5 model plots were maintained as same as space of the beginning. </td> </tr> <tr> <td data-bbox="309 945 568 1146">2) 75% of newly created Model Plots are evaluated that vegetation are recovered by December, 2014.</td> <td data-bbox="568 945 1311 1146"> <ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Sample plots for monitoring and comparing the vegetation were set inside and outside of each Model Plot. 3) Regeneration of oak was confirmed at all Model Plots in 2012. </td> </tr> </tbody> </table>	Indicators	Achievements	1) 75% of newly created Model Plots will achieve the purpose of establishment and maintained by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Training for guardsman was implemented in 2012. (Due to serious drought at Khuzestan area, many nomads have been stayed and grazed at Bazoft area. It was difficult to protect them to enter model plot which was not set fence.) 3) Up to the end of September, 2012, 5 model plots were maintained as same as space of the beginning. 		2) 75% of newly created Model Plots are evaluated that vegetation are recovered by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Sample plots for monitoring and comparing the vegetation were set inside and outside of each Model Plot. 3) Regeneration of oak was confirmed at all Model Plots in 2012. 		
	Indicators	Achievements								
	1) 75% of newly created Model Plots will achieve the purpose of establishment and maintained by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Training for guardsman was implemented in 2012. (Due to serious drought at Khuzestan area, many nomads have been stayed and grazed at Bazoft area. It was difficult to protect them to enter model plot which was not set fence.) 3) Up to the end of September, 2012, 5 model plots were maintained as same as space of the beginning. 								
	2) 75% of newly created Model Plots are evaluated that vegetation are recovered by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 5 Model Plots were created at each target village in 2011. 2) Sample plots for monitoring and comparing the vegetation were set inside and outside of each Model Plot. 3) Regeneration of oak was confirmed at all Model Plots in 2012. 								
	<p>Output 3:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="309 1191 568 1227">Indicators</th> <th data-bbox="568 1191 1311 1227">Achievement</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="309 1227 568 1675">1) Training program for CF candidate at least 5 persons in each village are initiated by December, 2014.</td> <td data-bbox="568 1227 1311 1675"> <ol style="list-style-type: none"> 1) The Training related VAP (Village Action Plan) for candidates of 27 CFs (Community Facilitator) was conducted in February 2011. 2) 15 CFs were selected through the work for prepare VAP specifically. 3) Preparation of document for progress of VAP and presentation workshop was conducted in April, 2012 (almost all CFs were participated). 4) Joint seminar of 5 villages for presentation (as an OJT) was conducted in May, 2012 (all CFs were participated). 5) Orientation was conducted in 2011. Training for Guardsman, prevention of forest fire, sewing, establishment of orchard and market survey with sewing lecter were conducted in 2012. </td> </tr> <tr> <td data-bbox="309 1675 568 1877">2) 70% of necessary number of CFs for VAP sub-project activities will be maintained by December, 2014.</td> <td data-bbox="568 1675 1311 1877"> <ol style="list-style-type: none"> 1) 15 CFs were selected (3CFs at each village*5, CFs of forest & rangeland are 3, CFs of Fruit garden are 3 and CFs of livelihood improvement are 3). </td> </tr> <tr> <td data-bbox="309 1877 568 2098">3) At least 1 village Action Plan will be conducted in each target village by December, 2014.</td> <td data-bbox="568 1877 1311 2098"> <ol style="list-style-type: none"> 1) VAP of each sector (forest & rangeland, agricultural development and livelihood improvement) at each target village is conducting at present. * Sewing Class: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Taron & Robartkoh and Tamarak Sofla. * Orchard: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Taron & Robartkoh and Tamarak Sofla. </td> </tr> </tbody> </table>	Indicators	Achievement	1) Training program for CF candidate at least 5 persons in each village are initiated by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) The Training related VAP (Village Action Plan) for candidates of 27 CFs (Community Facilitator) was conducted in February 2011. 2) 15 CFs were selected through the work for prepare VAP specifically. 3) Preparation of document for progress of VAP and presentation workshop was conducted in April, 2012 (almost all CFs were participated). 4) Joint seminar of 5 villages for presentation (as an OJT) was conducted in May, 2012 (all CFs were participated). 5) Orientation was conducted in 2011. Training for Guardsman, prevention of forest fire, sewing, establishment of orchard and market survey with sewing lecter were conducted in 2012. 		2) 70% of necessary number of CFs for VAP sub-project activities will be maintained by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 15 CFs were selected (3CFs at each village*5, CFs of forest & rangeland are 3, CFs of Fruit garden are 3 and CFs of livelihood improvement are 3). 	3) At least 1 village Action Plan will be conducted in each target village by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) VAP of each sector (forest & rangeland, agricultural development and livelihood improvement) at each target village is conducting at present. * Sewing Class: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Taron & Robartkoh and Tamarak Sofla. * Orchard: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Taron & Robartkoh and Tamarak Sofla.
	Indicators	Achievement								
	1) Training program for CF candidate at least 5 persons in each village are initiated by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) The Training related VAP (Village Action Plan) for candidates of 27 CFs (Community Facilitator) was conducted in February 2011. 2) 15 CFs were selected through the work for prepare VAP specifically. 3) Preparation of document for progress of VAP and presentation workshop was conducted in April, 2012 (almost all CFs were participated). 4) Joint seminar of 5 villages for presentation (as an OJT) was conducted in May, 2012 (all CFs were participated). 5) Orientation was conducted in 2011. Training for Guardsman, prevention of forest fire, sewing, establishment of orchard and market survey with sewing lecter were conducted in 2012. 								
2) 70% of necessary number of CFs for VAP sub-project activities will be maintained by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) 15 CFs were selected (3CFs at each village*5, CFs of forest & rangeland are 3, CFs of Fruit garden are 3 and CFs of livelihood improvement are 3). 									
3) At least 1 village Action Plan will be conducted in each target village by December, 2014.	<ol style="list-style-type: none"> 1) VAP of each sector (forest & rangeland, agricultural development and livelihood improvement) at each target village is conducting at present. * Sewing Class: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Taron & Robartkoh and Tamarak Sofla. * Orchard: Gazestan, Mazarashte, Durak Sofla, Taron & Robartkoh and Tamarak Sofla. 									

Output 4:

Indicators	Achievement
1) At least 5 CD modules will be conducted every year.	1) Needs survey and logistic preparation were implemented, and PCM / PRA training were conducted in 2010. (1 module) 2) Training of PRA, Method of Information Collection, Rangeland Ecology, GIS, GPS and Forest Ecology were conducted in June and July, 2011. (6 modules) 3) Training of Pest and Disease Control, Rangeland Management, Forest Propagation and Reforestation, Innovation in Natural Resources Management and Agro forestry were conducted in October, 2011. (5 modules) 4) Training of PCM was conducted in March up to May, 2012. And around 7 training class are planning to conduct since September, 2012.
2) At least 60% of NRWGO technical staff will participate in CD program.	1) 45 NRWGO staff was participated in Training held on October and February, 2010. 2) 68 NRWGO staff was participated in Trainings held on June and July, 2011 and total 53 staff (26 NRWGO and 27 NRWGO) are participated Trainings held on October 2011. 3) 37 NRWGO staff was participated in Trainings held on May, 2012. 4) Around 250 participants are estimated to take part in coming training.
3) 50% of participants (who have attended PCM/PRA, participatory method module) in CD program have drafted/drafting at least a project design and/or a proposal.	1) 2010: PCM 28 participants, PRA 23 participants 2) 2011: PRA/Participatory Method 12 participants 3) 2012: PCM 37 participants * Practical task will be conducted since 2012.

1st year, 2nd year report

Interview

Progress report

Questionnaire

Project Purpose

Indicators	Achievement
1) More than 70% of project participants in NRWGO will utilize knowledge / experience gained from the project.	- Around 80% of participants of training were satisfied with courses based on the result of interview. - Objectively verifiable data is not available.
2) More than 70% of project participants in target villages will value that NRWGO's capacity of forest & rangeland.	- Objectively verifiable data is not available. - It is early to assess the achievement of the indicator.
3) 70% of project participants in target villages will be benefited by the project by December, 2014.	- Objectively verifiable data is not available. - It is early to assess the achievement of the indicator.

Achievement level of Project

Logical relation between Outputs and Project purpose is not clear up to now. Achievement of each output is appeared gradually; all of the outputs are relevant with the project purpose.

ditto

Purpose and contribution of Outputs	But synergetic effect is not expected. Although their level of achievement varies at this moment, they have contributed to the achievement of the project purpose.	
Important assumption	The change of economic situation in Iran is rapid. Iranian monetary value declines and follows it, and the inflation is the situation advancing rapidly now. Serious drought is also concerned as an important assumption.	ditto

3. Efficiency: Inputs are done according to the plan of operation roughly. There is still scope for improvement.

Item	Evaluation		Information Source
Production level of Outputs	Output 1:	Draft final of CD Strategy Report is preparing, and final report will be finished until end of November, 2012. This activity is not completed by June 2012 when it is mentioned on Indicator.	CD report Training record Interview Questionnaire
	Output 2:	<ul style="list-style-type: none"> - After set up 5 model plots in 2011, and up to end of September 2012, it was maintained as same as space of the beginning. The fence was sometimes broken, but villagers have repaired by themselves according to the information by expert. It means 100% of each area is maintained so far. - Regarding the vegetation, regeneration of oak was confirmed at all model plots. Young trees have come into bud. It attain height of around 10 cm. Sample plots for monitoring and comparing the vegetation were set inside and outside of each model plot. 	
	Output 3:	<ul style="list-style-type: none"> - Project side implemented training for preparing VAP, and then 15 CFs were selected. After preparation the document of VAP, 2 times workshops were conducted, one of them was joint seminar of 5 villages. Training for guardsman, prevention of forest fire, sewing, establishment of orchards and market survey were also conducted in 2012. - Total 15 CFs were selected in 5 villages. - VAP of each sector (sub-project) is conducting. <p>* As described above, 15 CFs (3 CFs at each village) are working on sub-project now. On the other hand, it assumed that 5 CFs at each village would be selected according to the verifiable indicator in PDM. Even though the amount of CF is less than the number that assumed, activities of sub-project conduct well, so far, according to the opinion by C/Ps and experts.</p>	

	Output 4	<ul style="list-style-type: none"> - After preparation to start trainings, 1 module was conducted in 2010, 11 modules were conducted on 2011. In 2012, total 15 modules were planned to conduct. - 45 NRWGO staff were participated in 2010 (PRA), 68 NRWGO staff (June & July, 2011), 26 NRWGO staff and 27 NRWGO staff (October, 2011), 37 NRWGO staff (May, 2012) were participated. * 131(Total attendance) / 258 Total staff NRWGO+NRWO = 50.7% - Participants of; PCM (28) & PRA (23) in 2010, PRA (12) in 2011, PCM (37) in 2012. Practical task will be conducted since 2012, according to the information by experts. 	
Input (Iranian side) - Personnel - Space and facilities - Operational cost	Personnel	<u>Timing, Duration, Number and Quality</u> Sufficient number of specialists has been assigned to the project in timely manner. And the specialists with adequate background, relevant experience and technical level have been dispatched.	Progress Report Interview
	Equipment	<u>Timing, Quality and Quantity</u> Project office spaces for Japanese experts have been provided at NRWGO HQ and Bazoft field office. Quality is appropriate,	
	Operational cost	<u>Timing and Quantity</u> Appropriate amount of has been disbursed in timely manner by NRWGO,	
Input (Japanese side) - Experts - Equipment - Operational cost - Training in Japan	Experts	<u>Timing, Duration, Number and Quality</u> Japanese experts have been dispatched according to the annual plan of dispatch approved by JICA. The experts with the adequate background, relevant experience and technical level have been dispatched. They are accessible and ready to answer the technical questions made by the Iranian experts.	Progress Report Interview
	Equipment	<u>Timing, Quality, Quantity, Specification</u> Quantity, quality and item of the provided equipment are considered appropriate. Specification are also generally appropriate.	
	Training in Japan	<u>Timing, Quantity and Quality</u> Appropriate number of trainees has been sent in timely. The field, contents and quality of the training in Japan are relevant with the needs of this project. All of the training participants were interviewed by review team showed great appreciation on them. <u>Utilization</u> All of the training participants are directly involved in the project as the project personnel. Those who have participated in the training in Japan have utilized or have started to utilize the acquired skills and knowledge in the project activities. They have also shared the acquired skill and knowledge with their colleagues.	
	Operational Cost	Appropriate amount has been disbursed without delay.	
Pre-condition	Nothing Special		

4. Impact (Prospect): Some positive impacts have been already observed and more to be foreseen. Negative impacts have not been observed. They are not foreseen either.

Item	Evaluation	Information Source
Positive impacts	<ul style="list-style-type: none"> - NRWGO staffs who have attend training for C/Ps, training in Japan and in charge of community development activities has started a project at target area (Tarom). They have established corporation to assist forest management using participatory approach gained that knowledge and ways by this project. - Secondly, the vocational training school starts to emphasis to considering set up some activities such as establish the loan system in Bazoft. 	Interview
Negative impacts	Negative impacts have not been observed. Some personnel change has made since this project has stared.	Interview Questionnaire

5. Sustainability (forecast): It is reasonable to conclude that political, organizational and institutional sustainability of the achievement of the project is likely to be assured after completion of the project.

Item	Evaluation	Information Source
Policy and regal supports	Policy and regal support are likely to continue.	Interview Progress Report
Post project strategy	Post project strategies are yet to be developed (It will be confirmed on 3 rd JCC).	Ditto
Development of project personnel	6 member of NRWGO in charge of this project have been worked at project site with high motivation. From the beginning, they have a lot of experiences, a plenty of knowledge and skill. Through activities of this project, training for C/P and training in Japan, there are many NRWGO staff who is interested in this project or Participatory approach. It is not certain if they stay same position in the post-project period. But it is likely to start that many staff of NRWGO will be able to works with villagers.	Ditto
Management capacity	NRWGO (FRWO also) have managed many forest and watershed management project including this project.	Ditto
Financial aspect	So far, NRWGO has been secured the budget for this project. But it is not certain if this budget will distribute to NRWGO continuously.	Ditto
Technical aspect	<ul style="list-style-type: none"> - With further enhancement of their capacity through this project, it is expected that they would be able to continue the relevant project for the future. - Utilization, operation and maintenance of equipment and facilities are adequate. 	Ditto

MINUTES OF MEETING
ON
FORTH JOINT COORDINATION COMMITTEE
FOR
THE PARTICIPATORY FOREST AND RANGELAND MANAGEMENT
PROJECT
IN CHAHARMAHAL-VA-BAKHTIARI PROVINCE

JR
This document has been compiled referring to the contents of R/D, PDM/PO and Minutes of Meeting of JCCs. Abbreviations used in the document are listed in ABBRIVIATIONS.

MO
For the technical cooperation project, "The Participatory Forest and Rangeland Management Project in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province" in the Islamic Republic of Iran, FRWO/NRWGO-JICA expert Team have conducted cooperation activities since July 2010 to September 2012, based on the R/D, PDM · PO and MM of serial JCCs.

Chahar
And JICA dispatched Mid-term Review team, from 28 September to 17 October, Joint Review Committee (hereinafter called as"JRC") have formed including 2 of Iranian members, and the Committee conducted explanation of the mission, interviews of personnel concerned with the project, field survey, compiled their mid-term review report which has been endorsed by the committee members with serial discussions among the personnel of the project concerned.

PO
Mr.Takata, JRC team leader, submitted the mid-term review report including alternative PDM and PO with modification of activities and Objectively Verifiable Indicators as well as other matters in the JCC meeting, and explained results of review of the project activities and their recommendations towards the project.

PO
As a result of discussion on the report and other relevant matters, both side confirmed and basically agreed on the matters referred to in the mid-term review report. Submitted documents are attached as ANNEX I, II, III A Breaif meeting record of 4th JCC is attached as ANNEX IV.

Five (5) copies of Minutes of this meeting, written in English, have been prepared, confirmed and signed by following five (5) representatives of concerned parties.

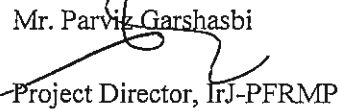
Shahrekord, October 17th, 2012

Japanese side

Iranian Side

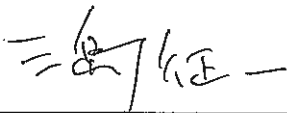


Mr. Hirohito TAKATA
Leader of Japanese Review Team
Global Environment Department
JICA



Mr. Parviz Garshasbi
Project Director, IrJ-PFRMP

Deputy Head for Arid and Semi-arid region and
acting Deputy Head for Watershed
Management, FRWO



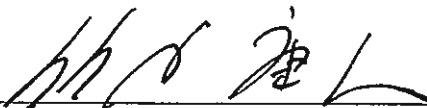
Mr. Seiichi MISHIMA
Team Leader, IrJ-PFRMP, JICA



Dr. Ataollah Ebrahimi
Project Manager, IrJ-PFRMP, Director
General,

NRWGO, Chaharmahal-va-Bakhtiari Province

(Witness)



Mr. Yasuto TAKEUCHI
Chief Representative, JICA Iran Office

ABBREVIATIONS

No.	Abbreviations	Name (English)
1	JICA	Japan International Cooperation Agency
2	JOFCA	Japan Overseas Forestry Consultants Association
3	JAFTA	Japan Forest Technology Association
4	SCI	Sanyu Consultants Inc.
5	IrJ-PFRMP	“The Participatory Forest and Rangeland Management Project in Chaharmahal-va-Bakhtiari Province”, in the Islamic Republic of Iran
6	FRWO	Forest, Rangeland and Watershed Management Organization
7	NRWGO	Natural Resources and Watershed Management General Office of Chaharmahal-va-Bakhtiari Province
8	PDM	Project Design Matrix
9	PO	Plan of Operation
10	R/D	Record of Discussions
11	JCC	Joint Coordination Committee
12	CD	Capacity Development (CD)
13	C/P	Iranian Counterpart
14	JOT	Joint Operation Team
15	JRC	Joint Mid-term Review Committee

CONTENTS OF ANNEX

- ANNEX I Agenda of 4th JCC
- ANNEX II 4th JCC attendances list
- ANNEX III Joint Mid-term Review Report
 Including Annex1-10 of the report
- ANNEX IV Brief meeting record of 4th JCC

ANNEX I 4th JCC Agenda

**The Participatory Forest and Rangeland Management Project
in Chahrmahal-va-Bakhtiari Province**

4th Joint Coordination Committee

- ✓ **Place** NRWGO in Chaharmahal-va-Bakhtiari province meeting room
Kashani Blv. Shahre-Kord, Chaharmahal-va-Bakhtiari
- ✓ **Date** 17th October, 2012 (Wednesday) <26 Mehr, 1391>
- ✓ **Time** 8:00~10:00

Chair person: Mr. Garshasbi

Time	Contents	Presenter
8:00-8:10	Opening address (5+5min.)	Mr.Garshasbi, Project Director
8:10-8:20	FRWO/NRWGO side Member introduction (5+5min)	Mr.Mohanmadi, Project deputy manager
8:20-8:30	JICA side Member introduction (5+5min)	Mr.Mishima, Chief advisor
8:30-8:40	Speech (5+5min)	Mr.Ebrahimi, Project Manager
8:40-8:50	Speech (5+5min)	Mr.Takeuchi, Representative JICA Iran office
8:50-9:20	Explanation of Review Report (15+15min)	Mr. Takata and Mr. Sekiguchi, JICA mission team
9:20-9:50	Discussion (30min)	
9:50-10:00	Conclusion	Mr. Garshasbi, Project Director

- ✓ **Handouts**
 1. Agenda <English>
 2. Review Report including PDM <English/ Persian tentative translation>

ANNEX II List of attendances of 4th JCC

1/3

Attendance Session

Date: 17 October 2012

4th JCC @NRWGO meeting room

No.	Name	Family	Title or Position	Organization
1	Farid	Sexedinejad	Advisor For Deputy Minister	FRWO
2	Parviz	Garshasbi	Deputy head For watershed management	FRWO
3	Attaollah	Ebrahimi	Director General	NRWGO
4	Ali Mohammed	Mohammadi	Technical Deputy	NRWGO
5	Sexed Mohammed	Hosseini	Representative of IR of Iran leader	NRWGO
6	Ali	Savaheri	technical deputy	Fars NRWGO
7	Hossein Ali	Mohammadi	National Coordinator	FRWO
8	mohamad javad	Bagheri	Head of ^{Security} of NRWGO	NRWGO
9	Fakhroodin	Karimzade	Expert of NRWGO	NRWGO
10	Bahareh	Tobgivi	Expert of NRWGO	NRWGO
11	Shahrooz	Jazageng	head of forest office	NRWGO
12	Farzad	Rezaradeh	Expert of NRWGO	NRWGO
13	Rahman	Tavakoli	head of survey office NRWGO ch-ba	NRWGO
14	Amin Karimi		Translator	JICA
15	Shahin	Arab	Interpreter	JICA

2/3

Attendance Session

Date: 17 October 2012

4th JCC @ NRWGO meeting room

No.	Name	Family	Title or Position	Organization
1	Seiichi	MISHIMA	Chief Advisor JICA Team	JICA
2	Hirohito	Takata	Team Leader	JICA Review Mission
3	Yasuto	Takeuchi	Chief Representative	JICA Iran
4	Farzin	Fard	JICA project team	project team
5	FARID	saidinejad	Head of ERW Office	F.R.W
6	Parriz	Barshasbi	Deputy of watershed manager	F.R.W
7	Alaallah	Ebrahimi	Head of NRWGO of chaharmahal	NRWGO chaharmahal-va- Bakhtiari
8	Alimshams	mohammedi	Technical Deputy	NRWGO
9	Hossein Ali	Mohammadi	National Coordinator	F.R.W
10	Ali	Savaheri	Technical Deputy	F.R.W NRWGO
11				
12				
13				
14				
15				

3/3

Attendance Session

Date: 17th Oct 2012

4th JCC

NRWGO Meeting room

No.	Name	Family	Title or Position	Organization
1	Osman ATIF	ATIF	CD/Training-Expert, JICA project	JICA Project
2	Mekdi	Goudarsi	Japanese interpreter	JICA
3	Hidaki Yukihiro	Yukihiro	Project Formulation Advisor	JICA Iran
4	Mitsue Umiguchi	Umiguchi	Evaluation Analysis	JICA Evaluation team.
5	Chie	Matsuyama	Forestry Agency	JICA Evaluation team
6	Takuya	SEKIGUCHI	Cooperation Planning	,
7	Saori	Takei	JICA project team Community Development/Coord. ruster	Project team (JOPCA)
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

ANNEX IV Brief meeting record of 4th JCC

Place: NRWGO meeting room

Date: 2012 Oct 17

8:15- Quran**Pre-report session (Opening address)****8: 19- 8:23- Mr. Garshasbi**

I would like to express my gratitude to JICA team, Review team and Iranian side. At this JCC meeting, JICA project has been evaluated by Review team, in evaluation of every project, both negative and positive points should be evaluated in order that negative points can be revised.

Pre-report session (Speeches)**8:23- 8:30- Mr. Seidi nejad**

Mr. Orangi, Vice Minister for FRWO, was willing to attend this meeting because of the importance of this project but because he had to attend other important meeting, I attended this meeting on his-behalf. Zagros area is the watershed basin of Karoon River and has a good vegetation and rich biodiversity, it is very important to implement such projects in this area which can control soil erosion. I, myself, am a member of Bakhtiari tribe and I know well that Bakhtiari people are aware of the importance of forest and rangeland and they like to conserve these natural resources but there is the livelihood needs which push them to over-utilize these resources, for example when they want to heat their milk, they have to use fuel wood and they have not any other choice. I express my gratitude to JICA Team, Review team and Iranian side for their efforts in this project.

8:30-8:40- Dr. Ebrahimi

I would like to express hearty thanks to JICA/NRWGO expert team and JICA Iranian office, welcome to Mid-term review Team and Iranian guest. It's two and half a year that this project has started its work and I also felt it necessary to conduct mid-term review. Conservation of natural resources is a common subject for human being living on the same planet earth. We have many difficult elements from legal and socio-cultural aspect for conservation of natural resources in the project area that it is not so easy to find good solution. I appreciate that JICA conduct the project which locale far from Japan and also that the cooperation effect is getting gradually be appeared among the local villagers. As you know this participatory project is working in three fields of Forest and Rangeland, Community Development and Capacity Development. There have been so many difficulties in implementation of this project, for example the distance of the project site and office and cultural factors, but good cooperation between Iranian and Japanese side of this project has smoothed the implementation and, because of these efforts, we have been able to come to this JCC meeting for Interim Evaluation. Fortunately, response of local people for this project shows that local

people have had good cooperation and participation in this project. Of course, if we can attract the participation of local people in this area, considering the existing limitations, we can extend participatory approach in whole Zagross area. I hope to hear the Review Team's comment on weak points and subject to be solved and potential of our project. And, if there are necessity to improve the project management method and efficiency, Iranian side also will take measures to improve them.

Thanks a lot.

8:40- 8:44- Mr. Mishima

Thank you for the Review team visiting our project located in the remote area. Frankly speaking, NRWGO has much of limitation and weak in budget and personnel when compared with that of Jan's government organization. Within the environment, NRWGO is performing its duties as much as possible. Until now, JICA and Iranian expert team has been spent most of the time to gain the confidence of people. I feel that Iranian experts are getting more deeply participate to the project and we could reach the stage that we can see some visible result of field activities. I, as a Team leader, am satisfied with JICA and Iranian expert team

8:44- 8:55- Mr. Takeuchi

JICA and FRWO have had good relations and continuous cooperation from many years ago that has caused implementation of this project. Comparing to other projects, most important point of this project which distinguishes it from other projects is the "*participation of local people*" which at the present time is a challenging issue for the implementers of the project. We cannot simply talk about such participatory project and since it is not simple issue that we are now cooperating.

The review team for the interim evaluation of the project has prepared a report to present in this meeting.

This JCC meeting is a good chance to discuss matters arising freely, with stand point to improve activities of another half of the project period. I read interim evaluation report. There were some recommendations in the report. If we consider them in remaining time of project, it will help the improvement of the project.

Finally, I express my deep appreciation for executives from NRWGO and NRWDO on the daily efforts for the project implementation.

Report session

8:55- 9:30- Mr. Takata

Our division of JICA is covering forest and environment and which of subject include serious issue and budget limitation. But as DG Dr.Ebrahimi mentioned before, conservation of natural resources is a critical problem, a part of global issue to be solved that JICA is developing project worldwide for the purpose.

This is second time for me to visit Iran and I understand that Iranian peoples are making serious efforts to tackle to the issue and that excellent partner to conduct the project. Japan has not so many cooperation projects in Iran and that the project is, with the meaning, important and I hope success

of the project.

We prepared English and Persian version of the Interim Review Report. We tried to make a brief report. Our objectives of review are to review interim accomplishment of the project and to analyze the problems. Interim review of the project is the joint review system. We requested to Iranian side to take part in the review which Mr. Javaheri and Mr. Tavakoli were introduced for this purpose and took part in the review. In addition to the cooperation of Mr. Javaheri and Mr. Tavakoli in preparing the interim review report, they have had some recommendations.

(Summarized explanations of the Joint Midterm Review Report)

1. View point

View point of review is Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impacts and Sustainability

2. Result of review on achieved result of each activity

Output 1: The Capacity Development Strategy for NRWGO is indicated

The strategy report will be submitted approximately on schedule.

Output 2: Regeneration of forest and rangeland is promoted in the target villages .

Model conservation plots have established in each target villages.

Vegetation recovery have observed and confirmed in each conservation areas.

These operation have been conducted as planned

Output 3: Alternative income source for forest and rangeland conservation are introduced in the target villages

3 of CFs in 5 Villages and 15 of CFs in total have selected. VAP s have made in each villages. Forming villagers groups, Fruit garden establishment/ management and sewing class training have been conducted.

Dialogue, interaction and mutual understanding have been progressed and improved. But it should be noted that have achieved with JICA input including budget. True sense of the term of participation which include the concept of thinking by them-selves and act by them-selves and they can develop by them-selves. Judging from the view point, the project is required further efforts.

Output 4: The Capacity Development Plan for NRWGO with regard to participatory forest and Rangeland management is formulated /implemented

Approximately 20 module in which PCM, PRA and participatory approach are included .Approximately 250 NRWGO staffs have trained. The activities of CD/Training are conducted as scheduled.

On satisfaction of participants, 80% of trainees have satisfied, while other sectors could not evaluate because of less data.

3. Major Point of Recommendation

There are 11 comments in the Review Report. I would like to explain which of 6 important items.

- (1) Guidelines for regeneration and participation shall be drafted
- (2) Iranian side is required to conduct same kind of activities as the project by the own staffs.
- (3) On participatory activities, level up of participation is required.
- (4) On CD/Training, increasing field training to extend knowledge and experiences of experts.
- (5) On improvement of livelihood, cooperation with MOJA and other concerned Ministry shall be enhanced
- (6) Foreseeing the project end, training plan and the project management system shall be considered.

Mr. Mishima said that it's time to get visible results that local people can feel. However, we are in the stage which can get visible result for which Iranian and Japanese side should use their technical capacity.

I have positive evaluation from this project and I express my gratitude for gaining confidence of local people.

Discussion

9:30- 9:34 – Mr. Alimohammad Mohammadi

In discussion about project, it is very important to use the comments of experts who have good experience. Term of this project is 5 years, half of which have been passed. Considering the project condition, it has had good implementation process. We expect higher for the remaining years because we want to extend this model project in other villages. There are some points as follows about which I like to discuss:

1. **Time of the project:** To get results from some activities such as regeneration, Project needs longer time than 5 years, then continuation after end of project is needed.
2. **Stay of Japanese experts:** Since some of the activities require long time, it requires longer stay of Japanese experts in Iran.
3. **Reasonable relation between the project parts:** Project is implemented in 3 parts of Forest and Rangeland, Community Development and Capacity Development, from now on, more reasonable relations should be made among these parts.
4. **Participation and work scale:** In small scale work, participation can be felt less, if the budget of the project increase and consequently the scale increase, better participation of local people can be gained

5. **Visible results:** Until now, so much time has been spent for PRA workshops and gaining the confidence of local people but from now on project should concentrate on achieving visible results.
6. **Incentive for participation:** One of the requirements of participation is incentive. Local people may have incentive of participation for honorary purpose or for earning of money. In order to have honorary participation of people, we should try to change the mind of people through training.

9:34- 10:05

Mr.Rezazadeh: In table 4.3, Achievements of Output 3, it has been mentioned that 15 community facilitators have been selected while in reality number of CFs is more than 15. What is the reason that here it is mentioned 15 CFs?

Mr.Mishima: Persons who are involved in this project are more than 15 but according to our point of view and description of CF, CF is a contact person who has some special characteristics that's why in this table, number of the CF has been mentioned 15.

Mr.Takata: Let me discuss about the recommendations of Mr. Mohammadi. Regarding longer stay of Japanese experts in Iran, I don't think that we can increase the time of their stay and it's because of the conditions of the area and because of the official system. Regarding the continuation of the project after the project end, it should be considered six months before the end of the project and we cannot decide now.

Mr.Karimzadeh: Regarding the concept of CF that CF has not reached as a person for "dissemination", I want to say that until now Project has been able to clarify the concept of CF to the villagers and project hasn't had enough time to reach the mentioned definition of CF.

About range management plans, we have considered some activities in this field; I also talked with Mr. Mishima and Mr. Hisamichi about this issue. This year, we will distribute some celery seeds (*Kellussia*) among the villagers to plant in the upside pastures, where are the habitat of celery.

Considering incorrect cultivation of slope lands in Bazoft area, we have planned agro- forestry plan in Dorak Sofla village by making terraces.

Also we are considering planting of forest fruit trees in bare spaces of forest, forest trees such as fig and olive.

Mr.Mohamadi: Mr. Javaheri, as one of the members of Review Team, if you have comments or opinions please express them.

Mr. Javaheri: All of us know well that Zagros is a complex area both from social and forestry point of view. It's impossible to improve the condition of this area without considering local people. I think this project has been successful in gaining the confidence of people and in making connection with them, I mean both Iranian and Japanese side involved in this project. We have had so many

participatory projects in Iran but I dare to say that this project has concentrated on the “participation” more than all the others.

Mr.Mishima: We should consider time, budget, and resources in implementation of the project. Iranian and Japanese experts have done their best considering the mentioned conditions.

Closing remark

10:05-10:10 Mr.Garshasbi:

I read the midterm review report, I would like to have meeting with Japanese experts in FRWO to discuss about some points regarding project.

Regarding midterm review report, I have outlined the following points for consideration:

1. **Extension of the project result in future:**

Since Bazoft area is the basin of Karoon, it is important to have participatory work in the field of watershed. This project is working in Participatory Forest and Rangeland Management field while watershed field is very important.

2. **Activities for Rangeland management:**

Pastures are very important in reducing pressure on forest, it is better that this project start working in rangeland as soon as possible.

3. **Flexible application of regulation:**

New regulation and method for efficient Agriculture and natural resources have decided. Iranian counterparts should not merely focus on JICA, they should also use the regulation and rules of FRWO in implementation of the project but it does not mean rejecting the activities, it is a kind of capacity development of the counterparts in using the legal potentials.

4. **Collaboration with other organizations:**

Other point is to use the capacities of other organizations; it's a good opportunity that this project uses the legal capacities of Iran. It was better that Planning Council of Province and Counties attended this meeting, because regarding income generation, all the infrastructures should be considered. Since this project has been started about 3 years ago and has gained so much experience, if project was willing, we can consider working with other organizations for example Karoon project can be linked to this project and together we can cooperate in the watershed field. We can also link with other provinces located in the watershed basin of Karoon.

5. **Visit from other participatory projects in other provinces:**

During the remaining time of the project, it should be planned for the visit of the sample projects in other provinces which are working in the same field of this project.

6. Dynamic and forward- looking plans:

Recent continuous drought years damage the environment and consequently the sustainability, project's plans should be dynamic and forward-looking considering the mentioned reason.

7. Logistics supports of NRWGO:

NRWGO should support the project for logistics matters and other issues, some small issues such as transportation should not hinder the implementation process.

8. Continuation of project after the project end:

It's too early to think of continuation of project after the project end because it will affect the decision making; it's a matter which should be considered in the last year of the project.

Thanks a lot for your cooperation with patience. I wish to have more cooperation with JICA in different fields.

10:10 End of 4th JCC meeting Record

0

Gr

elabir elabir

MD

(17)

Annex 4.

5 項目評価

1. 妥当性:以下のことから、本プロジェクトの妥当性は高いと言える。

項目		確認結果	情報源
必要性	プロジェクト目標はバズフト地域・社会、実施機関のニーズに合致しているか	プロジェクト目標は下記のとおりターゲットグループ (TG) のニーズに合致している。(i.e. NRWGO、バズフト地域5村の住民) <ul style="list-style-type: none"> - バズフト地域では過放牧による森林破壊が進んでいる。 - 自然災害から対象地域を守るのは急務の課題である。 - NRWGO 職員にとってコミュニティ開発に関連する知識と技術の習得は必要であると認識されている。 - バズフト地域住民は生活改善を期待している。 	インタビュー 関係資料
	優先度	プロジェクト目標はイランの政策に合致しているか、変更はないか	上位目標とプロジェクト目標はイランの開発計画に合致している。 <ul style="list-style-type: none"> - イラン国第5次5カ年計画(2011年3月)の中で、環境保全と生活改善についてはイラン国における優先課題として位置づけられている。
	日本側の援助方針に変更はないか	上位目標とプロジェクト目標は日本のODA方針に合致している。 <ul style="list-style-type: none"> - 環境保全、水資源管理及び都市と農村の格差是正については、イラン国に対する日本のODA (JICA事業展開計画) 協力方針の中で、優先的なセクターとして位置づけられている。 	同上
手段としての適切性	アプローチとして適切か	NRWGO はこれまでに森林・草地管理に関するプロジェクトを実施してきたが、住民参加が得られず、十分な進捗状況や達成には至らなかった。その経験を踏まえ、森林・草地管理プロジェクトの計画・実施、そして住民の代替生計手段の確保した上での自然資源利用は、プロジェクトの有効性を高めると期待できる。	関係資料 質問票回答
	対象地域、ターゲットグループ (TG) の選定は適切か	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト対象村は、森林草地の生産性、収入・支出源、環境変化に係る認識、洪水の経験及び生活改善に係る期待など、ベースライン調査の結果を踏まえ利用可能な指標を採用した。 - モデル保護地は、アクセシビリティ、地質、植生、面積、所有者、展示効果及び村民の意見などの基準を用いて、実現可能性を検討した。 - CF候補者のリストは、ワークショップを実施した際に作成した。また主要な役割を担うCFが選定された。 	インタビュー 関係資料 1年次報告書
	日本の技術の優位性はあるか	<ul style="list-style-type: none"> - 日本の森林管理に係るこれまでの経験は、国内のみならず世界中で数多く実施されているODA事業のさまざまな経験を通じ、豊富な事例と教訓を有しており、本件においても有用かつ活用できる。 - JICAの実施する事業では参加型手法を適用したプロジェクトが多く、それらから教訓を得られる。 	関係資料 質問票回答

2. 有効性（予測）：有効性はおおむね認められるものの、改善の余地がある。

項目	確認結果	情報源								
目標の達成	アウトプット 1: <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">指標</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2012年6月までにCD戦略書が作成される。</td> <td> 1) 2011年3月までに、1年次のベースライン調査結果及び翻訳資料を反映しドラフトversion 1を作成した。 2) 2011年12月までに、最終報告書案を作成した。 3) CD戦略書最終版は、2012年11月までに作成予定。 </td> </tr> </tbody> </table>	指標	達成度	2012年6月までにCD戦略書が作成される。	1) 2011年3月までに、1年次のベースライン調査結果及び翻訳資料を反映しドラフトversion 1を作成した。 2) 2011年12月までに、最終報告書案を作成した。 3) CD戦略書最終版は、2012年11月までに作成予定。	第1年次、第2年次報告書 インタビュー 事業進捗報告 質問書回答				
	指標	達成度								
	2012年6月までにCD戦略書が作成される。	1) 2011年3月までに、1年次のベースライン調査結果及び翻訳資料を反映しドラフトversion 1を作成した。 2) 2011年12月までに、最終報告書案を作成した。 3) CD戦略書最終版は、2012年11月までに作成予定。								
	アウトプット 2: <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">指標</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに設置目的を達成しつつ、維持される。</td> <td> 1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 2012年にガードマン研修を実施した。(フーゼスタン地域の深刻な干ばつにより、多くの放牧民がバゾフト地区に滞在した。一部の柵のない村では、家畜の侵入防止は困難であったため) 3) 2012年9月までのところ、5村ともに保護区は、設置当初と同様の状況で良好に維持されている。 </td> </tr> <tr> <td>2) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに植生が回復したと評価される。</td> <td> 1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 植生のモニタリングと比較のためのサンプルプロットが、各保護区の内外で設置された。 3) ナラの幼樹の再生がすべての保護区において2012年に確認された。 </td> </tr> </tbody> </table>	指標	達成度	1) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに設置目的を達成しつつ、維持される。	1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 2012年にガードマン研修を実施した。(フーゼスタン地域の深刻な干ばつにより、多くの放牧民がバゾフト地区に滞在した。一部の柵のない村では、家畜の侵入防止は困難であったため) 3) 2012年9月までのところ、5村ともに保護区は、設置当初と同様の状況で良好に維持されている。		2) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに植生が回復したと評価される。	1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 植生のモニタリングと比較のためのサンプルプロットが、各保護区の内外で設置された。 3) ナラの幼樹の再生がすべての保護区において2012年に確認された。		
	指標	達成度								
	1) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに設置目的を達成しつつ、維持される。	1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 2012年にガードマン研修を実施した。(フーゼスタン地域の深刻な干ばつにより、多くの放牧民がバゾフト地区に滞在した。一部の柵のない村では、家畜の侵入防止は困難であったため) 3) 2012年9月までのところ、5村ともに保護区は、設置当初と同様の状況で良好に維持されている。								
	2) 新たに造成されたモデル保護地の75%が、2014年12月までに植生が回復したと評価される。	1) 2011年に5村で保護区を設定した。 2) 植生のモニタリングと比較のためのサンプルプロットが、各保護区の内外で設置された。 3) ナラの幼樹の再生がすべての保護区において2012年に確認された。								
	アウトプット 3: <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">指標</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 対象村落毎に最低5人のCFの研修が2012年12月までに始まる。</td> <td> 1) 2011年2月(1年次)には5村のCF候補27名に対するVAPに関する研修を実施した。 2) 2011年6月以降(2年次)は、具体的にVAPの検討・作成作業過程を通じて、CFが選定された。 3) 2012年4月(3年次)には、各村のVAP実施状況報告資料作成と発表WSを実施し、ほぼ全員のCFが参加した。 4) 2012年5月には5村合同セミナー(参加者は5村3分野の15名)における発表のOJTを実施した。 5) 2011年(2年次)に説明会を実施した。2012年にはガードマン研修、山火事防止研修、果樹園、洋裁の講師と共に市場調査を実施した。 </td> </tr> <tr> <td>2) VAPのサブプロジェクト活動の実施に必要なCFの数の70%が、2014年12月にも維持されている。</td> <td> 1) 15人のCFが選定された(3CF/村×5=15、森林草地管理5、果樹園5、生活改善5)。 </td> </tr> <tr> <td>3) 2014年12月までに各対象村落においてアクションプランが少なくとも1つ以上計画に沿って実施される。</td> <td> 1) 各村においてVAPに沿った活動を実施している。 * 洋裁クラス: ガゼスタン、マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラクソフラ。 * 果樹園: マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラクソフラ </td> </tr> </tbody> </table>	指標	達成度	1) 対象村落毎に最低5人のCFの研修が2012年12月までに始まる。	1) 2011年2月(1年次)には5村のCF候補27名に対するVAPに関する研修を実施した。 2) 2011年6月以降(2年次)は、具体的にVAPの検討・作成作業過程を通じて、CFが選定された。 3) 2012年4月(3年次)には、各村のVAP実施状況報告資料作成と発表WSを実施し、ほぼ全員のCFが参加した。 4) 2012年5月には5村合同セミナー(参加者は5村3分野の15名)における発表のOJTを実施した。 5) 2011年(2年次)に説明会を実施した。2012年にはガードマン研修、山火事防止研修、果樹園、洋裁の講師と共に市場調査を実施した。		2) VAPのサブプロジェクト活動の実施に必要なCFの数の70%が、2014年12月にも維持されている。	1) 15人のCFが選定された(3CF/村×5=15、森林草地管理5、果樹園5、生活改善5)。	3) 2014年12月までに各対象村落においてアクションプランが少なくとも1つ以上計画に沿って実施される。	1) 各村においてVAPに沿った活動を実施している。 * 洋裁クラス: ガゼスタン、マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラクソフラ。 * 果樹園: マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラクソフラ
	指標	達成度								
	1) 対象村落毎に最低5人のCFの研修が2012年12月までに始まる。	1) 2011年2月(1年次)には5村のCF候補27名に対するVAPに関する研修を実施した。 2) 2011年6月以降(2年次)は、具体的にVAPの検討・作成作業過程を通じて、CFが選定された。 3) 2012年4月(3年次)には、各村のVAP実施状況報告資料作成と発表WSを実施し、ほぼ全員のCFが参加した。 4) 2012年5月には5村合同セミナー(参加者は5村3分野の15名)における発表のOJTを実施した。 5) 2011年(2年次)に説明会を実施した。2012年にはガードマン研修、山火事防止研修、果樹園、洋裁の講師と共に市場調査を実施した。								
	2) VAPのサブプロジェクト活動の実施に必要なCFの数の70%が、2014年12月にも維持されている。	1) 15人のCFが選定された(3CF/村×5=15、森林草地管理5、果樹園5、生活改善5)。								
	3) 2014年12月までに各対象村落においてアクションプランが少なくとも1つ以上計画に沿って実施される。	1) 各村においてVAPに沿った活動を実施している。 * 洋裁クラス: ガゼスタン、マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラクソフラ。 * 果樹園: マザラシュテ、ドゥーラックソフラ、タロムロバートクー、タバラクソフラ								

目標の達成	アウトプット 4:		第1年次、第2年次報告書 インタビュー 事業進捗報告 質問書回答
	指標	達成度	
	1) 最小限、毎年5以上のCDモジュールが実施される。	1) 2010年にニーズ調査など準備事務を実施しながら管理職・一般職員を対象としたプロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)/参加型農村調査(PRA)研修が計画・実施された。(モジュール数1) 2) 2011年6月、7月に森林生態学、データ/情報入力・整理方法、PRA参加型方法、草地生態学、全地球測位システム(GPS)、地理情報システム(GIS)の研修が実施された。(モジュール数6) 3) 2011年10月に病虫害・鳥獣害の防止、草地管理、植物の繁殖及び植林・植栽、アグロフォレストリー、天然資源管理の研修が実施された。(モジュール数5) 4) 2012年5月にはPCM研修を実施。また約6つの研修が2012年9月に実施予定。(モジュール数7)	
	2) NRWGOの技術職員の60%以上がCD研修に参加する。	1) 2010年2、10月には45人のNRWGO職員がPCM/PRA研修に参加した。 2) 2011年6月、7月には68人のNRWGO職員が、また10月には53人の職員(26人のNRWGO職員と27人の郡自然資源局事務所(NRWGO)職員が研修に参加した。 3) 2012年5月には37人のNRWGO職員が研修に参加した。また約250人の職員が予定されている研修に参加予定である。	
3) PCM/PRA参加型手法モジュールに出席した参加者の50%が、最低1つ以上のプロジェクトの計画又はプロポーザルを作成・作成中である。	1) 2010年のPCM研修参加者28人、PRA研修参加者23人。 2) 2011年のPRA参加型手法研修参加者12人。 3) 2012年のPCM研修参加者37人。 2012年からプロポーザル作成について実習及びテスト形式で実施を予定している。		
プロジェクト目標			
	指標	達成度	
	1) NRWGO職員のうちのプロジェクト参加者の70%以上がプロジェクトを通して得た知識・技術を活用していると認識する。	- インタビュー結果によると約80%の参加者が満足している。 - 検証可能な客観的データなし。	
	2) 対象村落のプロジェクト参加住民の70%以上がNRWGOの参加型森林・草地管理に関する能力が強化されたと評価する。	- 検証可能な客観的データなし。 - 指標の達成を評価するには時期尚早である。	
	3) プロジェクト活動に参加した住民の70%が2014年12月までに何らかの便益を得たと認識する。	- 検証可能な客観的データなし。 - 指標の達成を評価するには時期尚早である。	
関係要因	現在までのところ、アウトプットとプロジェクト目標の因果関係は明瞭ではないといえる。それぞれのアウトプットの発現は徐々に確認でき、すべてのアウトプットがプロジェクト目標と関連するものである一方で、相乗効果が見られない。それぞれの達成度に差異はあるもののプロジェクト目標達成にはおおむね貢献している。		同上
外部条件	イランにおける経済状況の変化が著しい。通貨価値が急落し、インフレーションも急速に進んでいる。(昨年発生した)深刻な干ばつも外部条件に影響を及ぼしたものといえる。		同上

3. 効率性:投入はおおむね PO で計画されたとおりになされているが、改善の余地もある。

項目	確認結果	情報源	
アウトプットの達成度	アウトプット 1	CD 戦略書最終案を作成中である。最終版は 2012 年 11 月に完成予定である。(指標として示された 2012 年 6 月までには達成できていない)	CD 戦略書 研修記録 インタビュー 質問票回答
	アウトプット 2	<ul style="list-style-type: none"> - 2011 年に 5 つのモデル保護地が設置されてから 2012 年 9 月末現在、設置当初の状態が維持されている。時々フェンスが壊されるなどの状況が発生したが、専門家によると村民自身で修繕したとのこと。(現在、全保護区で 100%維持されていると言える) - 植生の回復についても約 10cm 位のナラの幼樹の発芽が全モデル保護地で確認された。また植生のモニタリングと比較のため各モデル保護地の内外にサンプルプロットが設置された。 	
	アウトプット 3	<ul style="list-style-type: none"> - VAP 作成のための研修が実施され、15 名の CF が選定された。VAP 用資料準備の後、2 回のワークショップが実施され、そのうち 1 回は 5 村合同での実施であった。また 2012 年にはガードマン研修、山火事防止研修、果樹園設立研修、市場調査なども実施された。 - 5 村において 15 名の CF が選定された。 - VAP のサブプロジェクトを実施中である。 <p>*上述の通り、15 名の CF (各村 3 名) がサブプロジェクトで活動中である。一方で、PDM 指標では各村 5 名の CF 選定を想定しているものの、C/P と専門家によれば、サブプロジェクトの活動は順調であるとのこと。</p>	
	アウトプット 4	<ul style="list-style-type: none"> - 研修開始準備後、2010 年には 1 モジュール、2011 年には 11 モジュールが実施された。2012 年は 15 モジュール実施予定である。 - 45 名の NRWGO 職員が 2010 年の PRA 研修に参加、68 名の NRWGO 職員が 2011 年 6 月、7 月の研修に参加、26 名の NRWGO 職員と 27 名の NRWGO 職員が 2011 年 10 月の研修に参加、37 名の NRWGO 職員が 2012 年 5 月の研修に参加した。現在までの参加 131 名/全 NRWGO+NRWO 職員 258 名=50.7% - 2010 年 PCM 研修参加 28 名、PRA 研修参加 23 名、2011 年 PRA 研修参加 12 名、2012 年 PCM 研修参加 37 名。専門家によると、2012 年よりプロポーザル作成について実習及びテスト形式で実施を予定している。 	
イラン側投入	C/P 配置	<u>タイミング、時期、質・量</u> ：適切なバックグラウンド・豊富な類似業務経験、技術レベルを有す専門家が十分な数プロジェクトに配置された。	事業報告書 インタビュー
	施設・設備の提供	<u>タイミング、質・量</u> ：NRWGO より、NRWGO 本部とバズフトフィールド事務所に、日本人専門家の事務所スペースが提供された。	
	プロジェクト運営費	<u>タイミング、量</u> ：NRWGO より適切に支出された。	
日本側投入	専門家派遣	<u>タイミング、時期、質・量</u> ：JICA に承認された年間活動計画 (APO) に基づき、適切なバックグラウンド・豊富な類似業務経験、技術レベルを有す日本人専門家が派遣された。またイラン側専門家からの技術的な質問等にも十分に対応できる。	事業報告書 インタビュー
	資機材供与	<u>タイミング、質・量、仕様</u> ：すべて適正である。	
	本邦研修	<u>タイミング、質・量</u> ：適切な人数 (研修員数) が参加した。本邦研修の内容は本プロジェクトと関連するものであり、すべての参加者が有意義なものであったとインタビューでコメントしている。 <u>研修後の活用</u> ：すべての研修参加者が C/P として本プロジェクトに従事している。研修で得た知識や技術についてはプロジェクトに活用しており、それらの知識や技術を同僚にもシェアしている。	

項目	確認結果		情報源
	現地活動費	遅延なく適正に支出された。	
前提条件	特になし		—

4. インパクト (予測) : ポジティブなインパクトが既に見られ、今後も発現する可能性も予想される。ネガティブなインパクトについては現在のところ見当たらない。

項目	確認結果	情報源
正のインパクト	<ul style="list-style-type: none"> - NRWGO 職員 (Mr. Jazayeri 成果 3 : コミュニティ開発担当、本邦研修参加) がタロム村において、別途事業を開始した。プロジェクトで得た参加型手法の知識を活用し、森林管理を支援するために組合を設立し、各活動を実践している。これは波及効果の1つと考えられる。 - 2点目として、職業訓練校 (洋裁講師の派遣元) がバゾフト地区において、ローンシステムの設立を視野に入れるなどの活動を検討し始めた。 	インタビュー
負のインパクト	負のインパクトは現在のところ見当たらない (プロジェクト開始から数名の人事異動があった)。	インタビュー 質問票回答

5. 自立発展性 (見込み) : プロジェクト終了後においても、政策、組織、制度面でのプロジェクトの成果の自立発展性が確保される見込みは高いと考えられる。

項目	確認結果	情報源
政策・制度面	政策、制度面の変更の見込みは現在ない。	インタビュー 報告書
協力終了後の戦略	協力終了後の戦略については検討中である。(第3回 JCC で確認予定)	同上
人事面	6名の本プロジェクト担当の NRWGO 職員は事業開始から高いモチベーションで従事している。既に数多くの業務経験と豊富な知識・技術を有している。各活動や本邦研修を通じ、多くの NRWGO 職員が特に参加型手法について、興味を持っている。現在のところ、協力終了後もこれらの職員が同じポジションであるかは不明である。しかし多くの職員が村人と働き始めるようになった傾向も伺える。	同上
運営能力	NRWGO と FRWO は本プロジェクトを含め、多くの森林・水資源管理のプロジェクトを運営した経験を有している。	同上
財政面	現在のところ、NRWGO はプロジェクトに係る予算を確保できている。(しかし予算が継続的に NRWGO に支出されるかは不明である。)	同上
技術の定着	<ul style="list-style-type: none"> - このプロジェクトを通じて今後より能力の強化が図られれば、将来的に類似業務を続けることは可能であることが期待できる。 - 供与した資機材・施設の利用、運用、管理については適正である。 	同上

Annex5.

林野行政団員による視察結果

中間レビューにおいて現地調査を行った村の保護区の状況

<p>ガゼスタン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠目で見ても草の繁茂がわかる ・下層の草の背丈が高い ・天然更新の芽生えあり(ただし、今後そのままで芽が成長するかは疑問) ・フェンスあり 			
<p>タバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下層の草はかなり繁茂しているものの、背丈はそれほど高くない ・天然更新の芽生えあり ・萌芽更新かなり ・フェンスあり ・道路局との調整不十分で、フェンスが崩壊しているところあり 			
<p>タロム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナラ林が若いため播種試験を実施 ・下草はそれほどない ・芽生えはあり ・フェンスなし 			
<p>マザラシュテ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村から2時間以上登ったところに保護区があり ・天然更新の芽生えが最も元気なように見えた(土地がよいらしい) ・フェンスなし(村のCFさんが住民に丁寧に説明をして理解を醸成) 			
<p>マザラシュテ(草地)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラン側が草地(rangeland)と言っている高地草地 			

森林・草地の現状と森林・草地管理の取り組みについての所感

今回の現地調査において確認した現地のナラ林は、30年から40年生程度、萌芽林であろうと推測される箇所が多数あった。森林内の状況としては、単木間の距離が離れており、林冠が不連続で、放牧の影響によるのか、下層植生が全くない状況であった。また、場所によっては、土壌流出が顕著であり、微地形が変形してきているところも見受けられた。

草地については、森林限界よりも上の高地にあるという想定外の遠さで、遠景での確認しかできなかった。聞き取りでは、放牧の影響で草丈が低くなっているとのことであった。

本地域の森林の回復を促進するため、プロジェクトでは保護区を設定し、動物を進入させない場所を確保し、天然下種による（場所によっては播種により）更新状況を調査していた。これらの調査結果は大変重要なものであり、得られた知見や技術を整理して現地に還元して頂きたい。

現地調査において、イラン国の中でも特殊で複雑な本地域において、プロジェクトチームが非常に努力されていることは理解できたが、以下の点について疑問が残った。

1 つめは、どれくらいの期間で、どれくらい森林を、どのような形で再生するのかについてである。これは本質的で重要な問題であり、この目標の設定により、森林を再生させるために、どのような手法を用いるのが最も適切であるかが変わってくる。

実際に、現地調査で確認した天然下種更新は相当の時間を必要とする更新方法であり、保護区にあった芽生えが今後も生き残り、森林再生に寄与するのかわかりにくく感じた。いずれ、一定期間ごとに保護区をローテーションさせ、森林全体を再生させるためには、樹木の成長量にもよるが、長期間が必要である。自然のままに森林を再生することは一般的に重要なことだとは思いますが、森林劣化による土壌流出が進み、母岩が露出してしまうと、森林再生は極めて難しくなるため、本地域の森林を再生するにあたり、現地の放牧による植生への影響や土壌流出の速度に対して妥当な方法を用いることが重要だと考える。

天然下種更新、人工下種更新の他に、資料によると NRWGO では植栽も実施しているようである。また、中間評価では萌芽更新の試験的実施を提案した。現状では、どの方法でどれくらいの再生（回復）量が確保できるのかが明らかになっていないのかもしれないが、さまざまな方法の利点・欠点、活用の可能性について整理するとともに、森林再生が着実に進むような最適な方法を検討し、目標を定めてプロジェクトに取り組んでほしい。

2 つめは、本プロジェクトで用いている参加型の目指すイメージが十分理解できなかったことである。NRWGO の職員は約 200 人、チャハールマハール・バフティヤール州では 85 人とこのことで、日本の国有林の職員は全国で約 5000 人であることから考えれば、NRWGO の職員数は決して多くない。日本と同様に、職員のみできめ細やかな森林管理を実施することは困難であると考えられるため、参加型の手法により、きめ細やかな森林管理の一部を住民に委託することは必要不可欠だ。プロジェクトの現状では、保護区の設定やその管理に関して住民の協力を得ていたが、森林再生や森林管理について住民の意志がもっと反映されなければならないのではないかと考えられた。日本において、森林管理に住民の意志が反映されている成功例といえるものがあるかという疑問だが、協議会をつくり行政等との協働により国有林の森林管理に取り組んでいる事例はある。日本では森林の持つ多面的機能が整理され、水源涵養や国土保全等への影響について、住民に広く認識されるようになったために、このような取り組みが実施できるようになったのだと考えている。本地域においても、地下水が生活用水となっていることを考慮すると、地下水に対し森林は非常に重要な役割を担っていると思われるので、森林の重要な機能が一般に認識され、住民と行政の協働がもっと促進されることが必要である。

NRWGO の取り組みについての所感

本プロジェクトにおいて、NRWGO 担当者の積極的な姿勢は非常にすばらしいと感じたが、果樹園等の NRWGO が自らの所掌を超えて活動していることに違和感を覚えた。所掌を超えた業務を行う場合、専門的知識がないままに取り組むための非効率、本来の所掌官庁との軋轢、本来の所掌業務への支障等の問題が懸念される。実際に、MOJA へのインタビューの際には、「灌漑についてはわれわれであればもっと上手にできるのに」「NRWGO の本来業務である治水関係にもっと力を注いでほしい」といった意見が聞かれた。

森林保全・治水等 NRWGO の所掌業務の範囲が決して狭くないことを考えると、NRWGO が林業技術者・行政職員として何をすべきかについて整理し、所掌範囲外の重要な案件については、関係部署との調整・連携により実現することが重要であると考え。プロジェクトで直面している課題は、遊牧民の問題等の複雑で重要な問題が関係しているため、NRWGO だけでは対処できないのは当然だろうし、関係部署との連携のもと対処するほうが、得られる効果は格段に大きいと思われる。関係部署との調整・連携は行政職員として非常に労力が必要なものだと考えるが、NRWGO には参加型のアプローチ方法や森林・林業技術者としての技術を研修や実地で磨くとともに、中間評価の提案を足がかりとして、関係部署との調整・連携に積極的に取り組んでほしい。